

# 日本産カミキリムシのさなぎの形態学的研究 (第2部)

小島圭三・中村慎吾  
(農学部昆虫学研究室・広島県西城町立西城中学校)

## Morphological Studies of the Cerambycid pupae in Japan (Part 2)

Keizo KOJIMA and Shingo NAKAMURA  
(Laboratory of Entomology, Faculty of Agriculture,  
Saijo Junior High School, Bingo Saijo, Hiroshima Pref.)

This paper is a morphological study on 95 species of Cerambycid pupae in Japan. Of these 95 species 45 species were already described, the remaining 50 species were newly added by the authors.

As the result of a study, Cerambycid pupae could be divided into 6 groups; i. e. Prioninae, Disteniinae, Lepturinae, Aseminae, Spondyliinae, Cerambycinae and Lamiinae. These 6 groups are distinguishable by the following key.

### KEYS TO THE SUBFAMILY OF CERAMBYCID PUPAE.

1. Head flat and smooth without spines, spiculae and setae. Basal segment of antenna lie near mandible. Abdominal spiracles are slender oval and very narrow ..... Prioninae  
- Head bearing setae clearly. Basal segment of antenna lie near mandible, Abdominal spiracles broad oval ..... Disteniinae  
- Head bearing spine or setae clearly (a part of Cerambycinae lack these or flat and smooth). Basal segment of antenna lie apart from mandible. Abdominal spiracles broad oval ..... 2
2. Head sharply decline toward under part of prothorax so that the vertex is totally or for the greater part concealed from above. Vertex convex lacks deep vertical cavity and dome-shaped. Mandible without setae (but some of Clytini bearing short setae) ..... 3  
- Head slightly decline towards under part of prothorax, so that the greater part of the vertex is visible from the back. Vertex between bases of antenna either deeply excavate or flat, not convexity. Mandible bearing setae ..... Lamiinae
3. Abdominal segment 9 bearing a vertical terminal spine or a pair of urogomphi ..... 4  
- Abdominal segment 9 without a terminal spine or urogomphi ..... Cerambycinae
4. Front widest at between eyes. The hind part of eyes sharply constricted. Front slenderly extend forward. Pronotum is wide in base, narrower in frontward; the length is larger than the width. Abdominal segment 9 project either in parallel or slightly outwardly, the apex is not curved ..... Lepturinae  
- Front is wide, oval, not constricted at the hind part of eyes. Pronotum width is approximately same as length, and both side forming circular arcs. Abdominal segment 9 either strongly incurved forming hook-shape or slightly curved ..... Spondyliinae · Aseminae

The Cerambycid pupae of Spondyliinae in Japan is only one species, *Spondylis buprestoides*. It is clearly distinguished from Aseminae by bearing clear spines or spiculae on pronotum. The Cerambycid pupae belonging to each subfamilies are distinguished by the shape and length of antenna, the setae and spines on the front, the shape of pronotum and tergites, presence and the arrangement of setae, spines, spiculae and papillae; and the shape of 9th abdominal segment and presence of terminal spine or urogomphi.

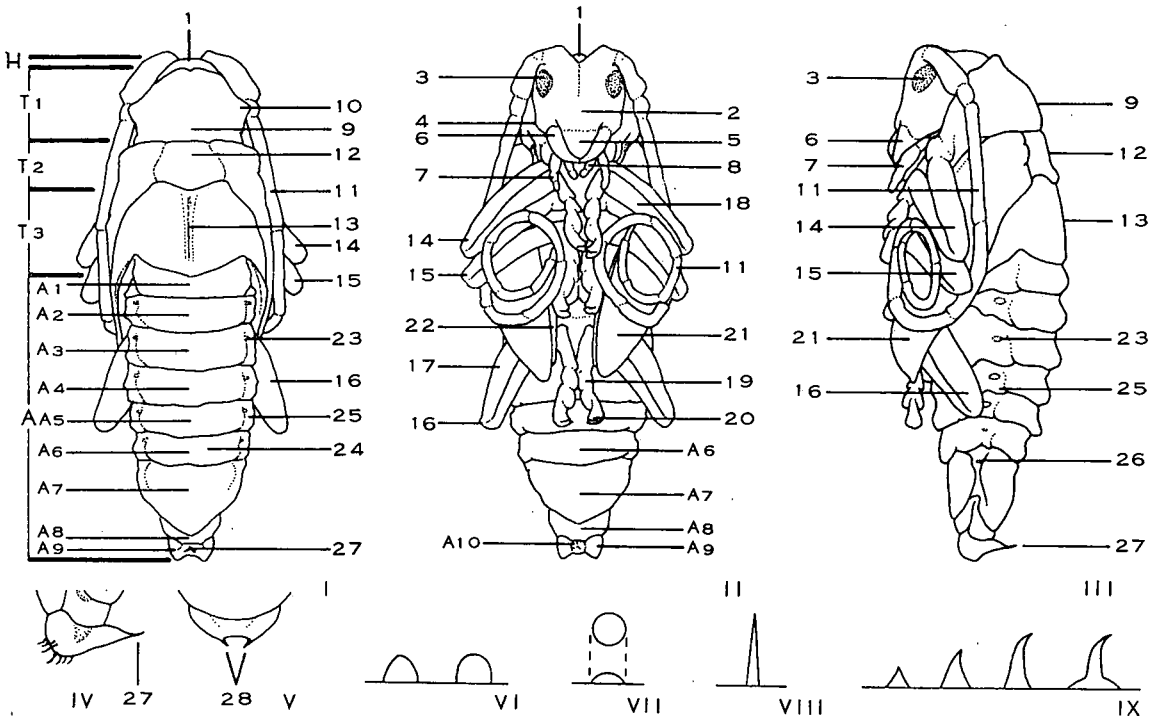
However, as there are much variation in the arrangement of setae or spines, these are not considered important characters of difference between species. The classification between allied species in each genus, for example, *Ceresium*, *Xylotrechus*, *Chlorophorus*, *Pterolophia*, *Mesosa* and *Monocharmus* etc are not easy.

はじめに

私たちは日本産カミキリムシのさなぎの形態学的研究(第1部)\*として、ノコギリカミキリ亜科、ハナカミキリ亜科、ホソカミキリ亜科、クロカミキリ亜科、マルクビカミキリ亜科、カミキリ亜科のさなぎについて比較検討した結果を報告したが、第2部としてフトカミキリ亜科のさなぎについて比較検討した結果と第1部を発表した後、採集し調べることできたケプトハナカミキリ、オガサワライカリモトラカミキリのさなぎについて報告する。また、第1部では図示できなかったテツイロヒメカミキリの図も付記する。

この報告をまとめるに当って、貴重な標本をご提供くださった遠田暢男、藤村俊彦、藤下章男、衣笠恵士、小阪敏和、国吉清保、越智鬼志夫、中山紘一、岡本光雄、下山健作の諸氏と小笠原諸島での調査に際してお世話くださった益子進、豊田武司の両氏に厚くお礼申し上げる。

なお、第2部だけを利用する人のために、さなぎにおける亜科の検索と記載に使っている各部分



第1図 さなぎの部分の名称と突起の模式図

I 背面(フトカミキリ亜科), II 腹面(フトカミキリ亜科), III 側面(フトカミキリ亜科), IV 尾端側面(フトカミキリ亜科), V 尾端背面(マルクビカミキリ亜科), VI 乳頭状突起, VII 果粒状突起, VIII 針状突起, IX とげ状突起

H 頭部 head, T1 前胸 prothorax, T2 中胸 mesothorax, T3 後胸 metathorax, A 腹部 abdomen, A1~A10 腹部第1節~腹部第10節 1st abdominal segment~10th abdominal segment

1 頭部 vertex, 2 顔面 front, 3 複眼 compound eye, 4 ほお gena, 5 上しん labrum, 6 大あご mandible, 7 小あごひげ maxillary palp, 8 下しんひげ labial palp, 9 前胸背 pronotum, 10 胸側突起 lateral thoracic spine, 11 触角 antenna, 12 中胸小たて板 scutellum of mesothorax, 13 小たて板溝 scutellar groove, 14 前あし fore-leg, 15 中あし middle-leg, 16 後あし hind-leg, 17 たい節 femur, 18 けい節 tibia, 19 ふ節 tarsus, 20 かぎづめ claw, 21 さやばね erytron, 22 後ばね hind-wing, 23 気門 spiracle, 24 腹節背 tergite, 25 ろく膜 pleura, 26 退化気門 degenerative spiracle, 27 尾端針状突起 terminal spine, 28 尾刺 urogomphi

\* 小島圭三・中村慎吾(1969)日本産カミキリムシのさなぎの形態学的研究(第1部)高知大学学術研究報告 第18巻 農学 第9号

の名称, 突起の名称を示す模式図を再掲しておく。

### さなぎにおける亜科の検索

1. 頭部にはとげ状突起, 針状突起や剛毛は全くなく平滑。触角基部は大あごのごく近くに着く。  
腹部気門は細長いだ円形で, きわめて幅がせまい。……………ノコギリカミキリ亜科
- 頭部には明りょうな剛毛がある。触角基部は大あごのごく近くにつく。腹部気門は幅広く, 卵形となる。……………ホソカミキリ亜科
- 頭部には明りょうなとげ状突起や剛毛があり, (カミキリ亜科の一部では欠き, 平滑なものもある), 触角基部は大あご基部から離れて着く。腹部気門は幅広く卵形となる。……………2
2. 頭部は前胸腹面に向って強く傾くので, 頭頂は全くか, あるいは大部分が背面からは見えない。頭頂部には深い縦のくぼみがなく丸く膨出し, 円丘状となる。大あごに毛がない。(トラカミキリ族の一部に短剛毛を持つものがある)……………3
- 頭部は前腹面に向って, わずかに傾くので, 背面から頭頂の大部分がみえる。頭頂部は触角基部のところは深く縦にくぼむか, 正中溝があり, 丸く膨出しない。大あごに剛毛がある。……………フトカミキリ亜科
3. 第9腹節端に垂直にのびる円錐形の尾端針状突起か1対の尾刺を持つ。……………4
- 第9腹節端に尾端針状突起も, 尾刺もない。……………カミキリ亜科
4. 顔面は複眼間で最も幅広く, 複眼後方は強くくびれて狭くなり, 顔面は前方に細長く伸びる。前胸背は基部が幅広く, 前方に向って幅が狭くなり, 幅より長さが大。尾刺は体にはほぼ平行またはやや外側につき出し, 先端は内側に曲らない。……………ハナカミキリ亜科
- 顔面は幅が広く, 卵形。複眼後方はくびれない。前胸背は幅と長さがほぼ等しく, 両側縁は円弧状となる。尾刺は内側へ強く曲り, かぎ状となるか, またはわずか曲る。……………クロカミキリ・マルクビカミキリ亜科

### フトカミキリ亜科さなぎの形態

頭部は前胸腹面に向ってわずかに傾くので, 背面から頭頂の大部分がみられる。

頭部には明りょうなとげ状突起, 剛毛があり, 大あごにも剛毛がある。触角基部は大あご基部より著しく離れて着き, 顔面が広い。

触角基部のところは深く縦にくぼみ, 顔面に正中溝がある。触角は長く, 胸部腹面で1~数回まわるとか, または腹部で曲って先端が頭部に達するものと, そこで再び曲って下降するものがある。

前胸は円筒形で, 前胸背は幅より長さが大。しばしば1対の胸側突起を持つ。

腹部気門は幅広く卵形。ろく膜の発達したものが多い。

### フトカミキリ亜科さなぎの種の検索

1. 触角はさやばね上で, 円環状に1回以上まいている。……………2
- 触角はさやばね上で, 円環状にまいていない。……………3
2. 胸側突起がある。……………13
- 胸側突起がない。……………タカサゴシロカミキリ
3. 触角は長く, 腹部第5節端でまがり, 腹面にあらわれ, ほぼ, 平行に上方へ向ってのび, 先端は顔面か, あるいは頭頂をこえて背面に達する。……………4

- 触角は長く、体側にそって下降し、さやばねの先端と同じ高さのところで曲って腹面にあらわれ、腹面を斜め上に向ってのびた後、中胸部で左右の触角は近づきながら、大あごに向ってのび、大あごの下で再び左右にわかれ、前胸腹面上で小さく環状に1回まく。……………ヒゲナガヒメルリカミキリ
- 触角は短く、さやばねの縁にそって下降し、中あしのやや下方か、さやばねの先端近くで曲り、腹面にあらわれる。……………5
- 4. 体はやや幅が広くやや扁平。各あしのたい節は太く棍棒状で側方に強く張り出す。後あしのたい節端は触角より外側へつき出し、腹面からはっきり見える。かぎつめは小さい。……………6
- 体は幅がせまくほほ円筒形。各あしのたい節は太くない。後あしのたい節端は触角の下にかくれ、腹面からは見えない、かぎつめは大きい。……………7
- 5. さやばねの縁にそって下降した触角は、さやばねの先端にそって曲り、腹面にあらわれる。…8
- 触角は中あしい節のところか、そのやや下方で曲り、腹面にあらわれる。……………9
- 6. 触角はいちじるしく長く、先端は頭頂を越えて背面に向い、腹部第1節端に達する。顔面にこまかいとげ状突起がわずかあり、上しんは平滑。……………ヒゲナガモモフトカミキリ
- 触角の先端はほおに達し、頭頂を越えない。顔面に針状突起と毛があり、上しんは後半に短毛が疎生する。……………ゴマダラモモフトカミキリ
- 7. 後あしは長く、ふ節はさやばねの下へつき出し、先は第6腹節端にとどく。たい節に短毛がない。……………タテジマカミキリ
- 後あしは短く、ふ節の先は第4腹節端にとどく。たい節に短毛が2列に並ぶ。……………シロスジドウボソカミキリ
- 8. 触角はほほ平行に上方に向ってのび、先端は前あしの基部に達する。…アヤモンチビカミキリ
- 触角は腹面で左右が交さする。……………フタモンサビカミキリ
- 触角は短く、交させず、先端は後あしのふ節のところと達する。(♀ではさやばね端で終る)……………サビカミキリ属 (*Pterolophia*)
- 9. 胸側突起を持つか、あるいは前胸の側部中央が鈍角に突出する。また、尾端針状突起がある。……………モモフトカミキリ族 (*Acanthocinini*) (ヒゲナガモモフトカミキリ属 *Acanthocinus*, ゴマダラモモフトカミキリ属 *Leiopus* を除く)
- 胸側突起、尾端針状突起のいずれもない。……………10
- 前胸背の前方より約 $\frac{1}{3}$ のところに鈍角の胸側突起がある、尾端針状突起はない。……………サビアヤカミキリ
- 10. 触角間はせまく、触角間はV字状に強くくぼみ、顔面の正中線はきわめて明りょう。……………ゴマフカミキリ族 (*Mesosini*)
- 触角間は広く、頭頂はわずかV字状にくぼむか、平らで、顔面の正中線はあまり明りょうでない。……………11
- 11. 頭頂は軽くくぼむ。触角は腹面でだ円環状に曲り、先端は前あしまたは中あしのたい節端に達する。(♀では前あしのけい節または中あしい節基部に達する) 体は円筒形で腹節背にとげ状突起がある。……………12
- 頭頂は軽くくぼむ。触角はさやばね上でだ円環状に軽く曲り、触角の先端は中あしけい節の中央に達し、あしの上にかさならない。体はやや扁平で紡すい形。腹節背にとげ状突起はない。……………ルリカミキリ
- 触角間は広く、頭頂は平ら。触角は腹面をほほ平行に上にのび、先端はわずか曲って、ほおま

たは前あしの基部に達する。体は細長く円筒形。腹節背には小さいとげ状突起がわずかある。……………トホシカミキリ族 (Saperdini)

(ヒゲナガヒメルリカミキリ *Praolia citrinipes* Bates を除く)

12. 顔面にとげ状突起がある。前胸背、腹節背のとげ状突起は大きい。触角は長く、先端の前あしのたい節端に達する。……………シロオビチビカミキリ
- 顔面にとげ状突起はない。前胸背、腹節背のとげ状突起は小さい。触角の先端は前あしい節中央に達する。……………ハイイロヤブズカミキリ
13. 明りょうな尾端針状突起を持つ。……………14
- 尾端針状突起はないか、尾節背の円すい形に膨出した部分に短毛が密生する。または、尾節背面中央のとげ状突起が扁平となり、その左右にやや扁平なとげ状突起が並ぶため、背面からみたとききょ歯状となる。……………15
14. 触角は 1.5 回まき、大あごに毛がない。腹部第 1～7 節背の後縁に短毛がやや密生する。……………イタヤカミキリ
- 触角は 2 回まき、大あごに毛がない。腹部第 1～6 節背の後縁に 2 列にこまかいとげ状突起が並び、第 7～8 腹節背は平滑。……………ヒゲナガゴマフカミキリ
- 触角は 3 回以上まき、大あごに剛毛がある。腹部第 1～7 腹節背の後縁に短毛がやや密生する。……………16
15. 触角は 2 回以上まき、大あごに剛毛が 2 本ある。第 9 腹節背中央は円すい状に膨出せず、他のとげ状突起よりやや長いとげ状突起がある。……………ピロウドカミキリ属 (*Acalolepta*)
- 触角は完全に 2 回まかない。(♀は 1 回) 大あごに剛毛が多い。腹部第 9 節背中央は円すい状に突出し、赤かっ色の短毛が密生する。……………17
- 触角は 1 回まき、大あごに剛毛がない。腹部第 9 節背は円すい形に膨出し、その先端に扁平なとげ状突起があり、その左右にとげ状突起が近接するので、背面からみたとききょ歯状に見える。……………ゴマダラカミキリ
16. 触角第 1 節はとっくり状で長く、第 2 節は棍棒状で長く、末端は中あしに達する。大あごに剛毛が 1 本ある。……………セミスジコブヒゲカミキリ
- 触角第 1 節の末端は太く角稜となる。第 2 節は管状で上下で太さは変らず、末端は前あしに達する。大あごに剛毛が 2～4 本ある。……………18
17. 触角第 3 節は長く、腹面からみたとき第 3 節端は前あしの下にかくれてみえない。中胸小たて板、後胸背に赤かっ色の短毛が逆八字状に密生し、ピロード状に見える。……………シロスジカミキリ
- 触角第 3 節は短く、腹面からみたとき第 3 節端は前あしの下にかくれない。中胸小たて板、後胸背に短毛が逆八字状に疎生するが、ピロード状にみえない。……………クワカミキリ
18. 腹部第 1～7 節背の後縁に短剛毛がやや密生するが、後方の節に向うにつれて疎となる。腹面とろく膜は毛や突起がなく平滑。大あごに剛毛が 2～3 本ある。尾端針状突起は大きく鋭い。胸側突起も大きく鋭い。……………ヒゲナガカミキリ属 (*Monochamus*)
- 腹部第 1～4 節背の後縁に短剛毛がやや密生し、第 5～6 腹節背ではきわめて少なく 1 列に並ぶ。第 7～8 腹節は剛毛がなく平滑。大あごに 4 本の剛毛がある。尾端針状突起はあまり大きくない。……………キボシカミキリ
- 第 1～7 腹部背はこまかい赤かっ色の剛毛が疎生する。ろく膜には果粒状突起とやや長い毛があり、腹部腹面の側部に短剛毛が 3～4 本ある。大あごに 2 本の短剛毛がある。尾端針状突起は円すい形で小さい。……………チャボヒゲナガカミキリ

## Mesosini ゴマフカミキリ族

- 上しんのほぼ中央部にある横帯状に毛の密生した部分は密で、毛も長い。体幅が大きく、顔面も大きい。最大体幅：体長 $\approx$ 1 : 2.5 ……………ケハラゴマフカミキリ
- 上しんの横帯状に毛の密生した部分は前種より疎で、毛は短い。体幅が小さく細長い。最大体幅：体長 $\approx$ 1 : 3.3 ……………ナガゴマフカミキリ
- 上しんの横帯状に毛の密生した部分はやや疎で、毛は短い。腹背のとげ状突起は小さく、ろく膜上ではきわめて疎で欠くものが多い。前2種より小さい。体長19 mm 以下。最大体幅：体長 $\approx$ 1 : 3 ……………ゴマフカミキリ

*Pterolophia* サビカミキリ属

- 1. 前胸背の全面に果粒状突起か、またはこまかいとげ状突起が疎生する。……………2
- 前胸背に果粒状突起やとげ状突起がない。……………3
- 2. 顔面の触角と複眼周囲に短毛が多い。腹節背のとげ状突起は大きく、やや密。第1~7腹節背では環状に並び、第5~7腹節では部分的に2重の環となる。たい節に毛が少ない。……………トガリシロオビサビカミキリ
- 顔面の触角と複眼の周囲に3~4本の長毛が疎生する。第2~7腹節背にとげ状突起が環状に並ぶが、とげ状突起は小さい。たい節端に1列、短毛があり、全体に長毛が疎生する。……………エゾサビカミキリ
- 複眼周囲に5~6本の長毛が疎生し、頭頂には毛がない。腹部第1~7腹節背に小さいとげ状突起が環状に並ぶ。たい節端に短毛がある。……………ワモンサビカミキリ
- 3. 前胸背のほぼ全面に短毛が疎生。腹節背のとげ状突起は前縁近くにほぼ1列、横に並ぶ。とげ状突起は小さく、先は曲らない。……………アトジロサビカミキリ
- 前胸の前縁と中央にやや長い毛が疎生する。腹節背のとげ状突起は先が曲り、かぎ状突起は先が曲り、かぎ状となり、環状にならぶ。ろく膜上に5~6個の果粒状突起と長毛がある。……………アトモンサビカミキリ
- 前胸の前縁と中央にやや長い毛が疎生する。腹節背のとげ状突起の先はやや曲り、環状に並ぶ。ろく膜上に7~8個の果粒状突起があり、長毛が多い。……………ナカジロサビカミキリ

*Monochamus* ヒゲナガカミキリ属

- 1. 体長は25 mm 以上。……………2
- 体長は20 mm 以下。……………3
- 2. 触角は3回まく。(♀は1回)……………4
- 触角は3.5回まく。(♀は1.5回)……………5
- 3. 大あごに長剛毛が2本。第1~6腹節背に果粒状突起と長毛が疎生する。第7腹節背は剛毛が疎生する。ろく膜上に短毛が疎生する。……………ヒメヒゲナガカミキリ
- 大あごに短剛毛が3本、第1~6腹節背に短剛毛のやや密生した部分がある。第7腹節背の後縁はこまかい針状突起がほぼ1列に並ぶ。ろく膜上に毛がない。……………カラフトヒゲナガカミキリ
- 4. 前胸背に果粒状突起がやや密にある。体長は35.5~37 mm\* (小島俊文 1931による)……………ヒメシラフヒゲナガカミキリ
- 前胸背にこまかいとげ状突起が前縁と中央と、後縁より胸側突起へかけて、やや密に並ぶ。体長28~30 mm。……………シラフヨツボシヒゲナガカミキリ
- 5. 第8腹節腹板に剛毛がない。体長は30 mm をこえない。……………マツノマダラカミキリ

\* 成虫の体長は14~28 mm で、成虫に比べてすこぶる大きく、将来、標本を得て再検討の必要がある。

- 第 8 腹節腹板に剛毛が 2 本ある。体長は 35~40 mm で、きわめて大きい。(小島俊文 1931 による) .....ヒゲナガカミキリ  
*Acalolepta* ビロウドカミキリ属
- 触角は 2 回まく。(♂は 2 回よりわずかに長い。) 第 1~7 腹節背の後縁近くに、針状突起が正中部を除いて、2~3 列不規則に並び、長毛が疎生する。.....センノカミキリ
- 触角 3 回以上にまく。第 1~7 腹節背後縁の針状突起は少なく、疎。短毛が疎生する。.....キンケビロウドカミキリ  
*Acanthocinini* モモブトカミキリ族  
 (ヒゲナガモモブトカミキリ属 *Acanthocinus* とゴマダラモモブトカミキリ属 *Leiopus* を除く。)
1. 頭頂の左右に 4 本の長毛がある。あしは短く、たい節とけい節に毛がある。腹節腹面に毛がある。尾端針状突起の左右に 2 対のとげ状突起がある。..... 2
- 頭頂の左右に 1 本の長毛がある。たい節は太く、たい節端にのみ剛毛がある。尾端針状突起の左右に 1 対のとげ状突起がある。..... 3
2. 顔面に短毛が疎生。後あしのたい節に毛が多い。前胸腹面に短毛がある。.....アトモンマルケシカミキリ
- 顔面に毛が少ない。また、後あしたい節に毛が少ない。前胸腹面に毛がない。.....シラオビゴマフケシカミキリ
3. 体は幅がせまく、紡すい形。頭頂、顔面の毛は短い。第 9 腹節腹面のとげ状突起は大きく、強く上方に曲る。.....フタツメケシカミキリ
- 体は幅が広い。頭頂・顔面の毛が長い。たい節端に剛毛が多い。第 9 腹節腹面のとげ状突起は小さく、あまり曲らない。.....オガサワラカミキリ  
*Saperdini* トホシカミキリ族  
 (ヒゲナガルリカミキリ *Praolia citrinipes* Bates を除く)
1. 後あしは短く、後あしたい節端は第 4 腹節の前方より約  $\frac{1}{3}$  のところに達し、ほとんど、さやばねの下にかくれ、腹面から後あしたい節とけい節はみえない。ろく膜にこまかいとげ状突起がある。..... 2
- 後あしは長く、後あしたい節端は第 5 腹節または第 6 腹節の中央に達し、腹面から後あしたい・けい節は、はっきりみえる。ろく膜にとげ状突起がない。..... 3
2. 体はいちじるしく細長い円筒形で、頭部より第 4 腹節までほぼ幅が同じである。顔面は小さく、ほぼ三角形。第 1~7 腹節のろく膜に小さいとげ状突起と短毛がそれぞれ 1 本ある。中胸たて板に短毛が疎生する。.....リングカミキリ属 (*Oberus*)
- 体は円筒形で中・後胸部がやや幅が広い。顔面は大きく三角形にならない。第 5~7 腹節、ろく膜にきわめて小さいとげ状突起と短毛がそれぞれ 1 本ある。中胸小たて板に短毛はない。.....キクスイカミキリ
3. 頭頂の左右に 3 本のやや長い針状突起と毛がある。顔面に針状突起と長毛が疎生する。後あしたい節は第 6 腹節の中央に達する。.....シラホシカミキリ
- 頭頂の左右に 2 対の長毛および刺毛がある。顔面に毛が散生する。後あしたい節は第 6 腹節の中央に達する。(梅谷・藤村 1954 による) .....リュウキュウルリボシカミキリ
- 頭頂の左右にそれぞれ 2 または 4 本の長毛がある。顔面は長毛が疎生し、針状突起はない。後あしたい節は第 5 腹節の中央に達する。..... 4
4. 大あごに剛毛がない。上しんも毛がなく平滑。第 8 腹節側部のほぼ中央に 1 本の長いとげ状突起がある。..... 5

- 大あごに 2～3 本の剛毛がある。上しんに 4 本の剛毛がある。第 8 腹節側部にとげ状突起はない。…………… 6
- 5. 前胸・中胸・後胸背および腹節背のとげ状突起は細長く、やや針状。いずれの節でも密。体が大きい。(体長 12 mm) …………… ヨツキボシカミキリ
- 前胸・中胸・後胸背および腹節背のとげ状突起は小さく、円すい形。いずれの節でも疎。体が小さい。(体長 8 mm 以下) …………… キモンカミキリ
- 6. 前胸背, 中胸小たて板, 後胸背は長毛が疎生し, とげ状突起はない。腹節背に小さい黒かっ色のとげ状突起がある。…………… コジマベニスジカミキリ
- 前胸背, 中胸小たて板, 後胸背は長毛ととげ状突起が疎生する。腹節背に細長いとげ状突起がある。…………… 7
- 7. 頭頂の左右に, やや大きい乳頭状突起が 1 個あり, その上に 2 本の長毛がある。顔面に毛が多い。顔面は三角形にならない。大あごに 3 本の剛毛がある。…………… ハンノアオカミキリ
- 頭頂の左右に乳頭状突起はなく, 長毛のみ 2 本ある。顔面は三角形にならない。また。顔面に毛が少ない。大あごに 3 本の剛毛がある。…………… ハンノキカミキリ
- 頭頂の左右に乳頭状突起はなく, 長毛のみ 2 本ある。顔面はほぼ三角形で, 顔面に短毛が疎生。大あごに 2 本の剛毛がある。…………… ジュウニキボシカミキリ

付記 小島俊文 (1929) は, トホシカミキリ族に属するアサカミキリ *Thyestilla gebleri* (Faldermann) のさなぎを記載しているが, 標本が入手できず, 検討できなかったので, 本検索から一応除外した。

記載文では他属のものと明りょうな区別点は全く見出すことはできなかった。記載文からの推定では, ハンノキカミキリのさなぎに酷似している。

リュウルリボシカミキリについても, 梅谷・藤村 (1954) の記載と比較して一応の区別点を記したが, これも, 小島俊文 (1931) が記載したヒメシラフヒゲナガカミキリなどと共に検討を必要とする。この点, 不満な点を残しているが, 現在のところ検討不能なので, 標本を得た後, 検討を加え, 誤りは訂正したい。

#### *Mesosa longipennis* Bates ナガゴマフカミキリ

Kojima (1931) Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ. 11 (3)

中村慎吾・藤村俊彦 (1958) 比和科学博物館研究報告 (1)

体はほぼ円筒形で乳白色。頭部は大きくほぼ卵形で正中溝は明りょう。触角間はせまく頭頂は V 字形にくぼむ。触角基部の上部にこまかい 2 個の乳頭状突起と 2 本の毛がある。顔面には毛が少なく, 複眼のまわりに 4～5 本の短毛がある。上しん基部の左右に各 2 本の短剛毛がある。上しんの先より約  $\frac{1}{4}$  のところに横帯状に毛の密生した部分があり, また, 先端は短毛がやや密生する。触角は体側にそって下降し, 中あしたい節端の下をとおり, さやばねの先端近くで顔面にあらわれ, 腹面で大きくだ円環状に曲り, 先端は♂では前あしたい節端, ♀では前あしたい節基部に達する。

前胸は円筒形で前方やや細くなる。前縁近くにかぎ状突起がほぼ 2 列に並び, 長毛が疎生する。正中溝は明りょう。前胸背中央にもかぎ状突起がまばらにある。中胸小たて板の側縁より後縁のほぼ中央にかけてかぎ状突起がほぼ 2 列に並ぶ。後胸背の正中溝の両側に 3 列のまばらなかぎ状突起がある。

腹部第 1～7 節背には内側にまがったかぎ状突起がほぼだ円環状に並ぶ。第 8 腹節背ではほぼ 1 列に 4～5 個のやや大きいとげ状突起がならぶ。第 9 腹節端 (尾節端) には 10～13 個の大きなとげ状突起が背面正中部を残してほぼ環状に並ぶ。ろく膜上にもとげ状突起と毛がある。かぎ状突起は後方の節に向うに従って大きくなり強く湾曲する。各あしのたい節端を短毛が 1 列, ほぼ環状にと



りまく。

体長 19~24 mm, 前胸背幅 4~5 mm。

この記載に使用した標本は1954年6月, 広島県比和で, ヤマフジ (*Wisteria brachybotrys* Seib. et Zucc.) の枯つると, 1968年6月8日, 広島県可部でシイタケのほだ木として使用されたコナラ (*Quercus serrata* Thunb.) の枯木から採集した。

*Mesosa myops japonica* Bates ゴマフカミキリ

中村慎吾・藤村俊彦 (1958) 比和科学博物館研究報告 (1)

前種と酷似しているが, 辛じてつぎの諸点で区別できる。

1. 上しんの横帯状の毛の密生した部分は前種より疎で, 短い。
2. 胸背, 腹背のとげ状突起が前種より小さく, あまり強く曲らない。
3. ろく膜上のとげ状突起は小さく疎で, 欠くときもある。
4. 前種よりはるかに小さく, 前種が細長くみえるのに対して, ややずんぐりしている。

体長 17~20 mm, 前胸背幅 4~5 mm。

この記載に使用した標本は1954年6月, 広島県比和でヤマフジ (*Wisteria brachybotrys* Seib. et Zucc.) と1950年11月14日, 群馬県草津でクリ (*Castanea crenata* Seib. et Zucc.) の枯木, 1964年5月19日香川県塩江でクリの枯木から採集したものを使用した。

*Coptops hirtiventris* Gressitt ケハラゴマフカミキリ

前2種と酷似しているが, かろうじてつぎの諸点で区別できる。

1. 体幅が大きく, ずんぐりした感じが強く, 顔面が著しく大きい。
2. 上しんの横帯状の毛の密生した部分は, 前2種より密で, 毛も長い。
3. 触角基部の上部の鈍突起が前2種より明りょう。
4. 体が大きい。

体長 23~25 mm, 前胸背幅 6~7.5 mm。

この記載に使用した標本は小笠原母島で, 1970年4月2~5日, ギンネム (*Leucaena glauca* Benth.) の枯木から採集した。

付記 Duffy (1957) はアフリカ産の *Mesosa nebulosa* (Fabricius) と *Coptops aedificator* Fabricius との差異を *Mesosa* が第7腹節のとげ状突起より第9節のものが小さく, 淡赤かっ色であるのに対して, *Coptops* では第9節のものが大きく, 暗赤かっ色である点, また, ろく膜上のとげ状突起が *Mesosa* で3, *Coptops* で5個になっている点に求めているが, 日本産の上記3種では腹節背, ろく膜上のとげ状突起の数や大きさにかんがりの変異があり, Duffy (1957) の属間の差異は日本産ではあてはまらない。

また, 小島・林 (1969) の検索\* によると, *Mesosa* 属は触角第1節は第3節より小, *Coptops* では触角第1節は第3節より大また等長とあるが, さなぎの場合, ケハラゴマフカミキリも, ナガゴマフカミキリ, ゴマフカミキリともに第1節は第3節より小さく, 通常, 成虫の触角間の比率とさなぎの触角間の比率は同じになるが, ケハラゴマフカミキリの場合には異っている。従って, これらのさなぎの場合, 触角の節長の比率は属を区別する特徴となっていない。

*Sybra ordinata* Bates アヤモンチビカミキリ

体は円筒形であるがやや扁平。乳白色を呈する。顔面の触角基部付近に長毛がほぼ3列に並ぶ。

\* 小島圭三・林 匡夫 (1969) 原色日本昆虫生態図鑑。I カミキリ編。

ほおに長毛が疎生する。頭頂にも長毛が疎生する。上しんのほぼ中央に正中部を残して短毛が横帯状に疎生する。そして、先端に2~3本の長毛があり他は平滑。

前胸は円筒状で前縁近くは細くなる。前胸背の全面に長毛が疎生するが、前縁と側縁でやや密。中胸小たて板、後胸背は平滑で毛や突起を欠く。

触角は体側にそって下降し、さやばねの縁にそって曲り、先端のところで腹面にあらわれて、腹面を平行にのび、先端は下しんひげのところに達する。

前あしと中あしは扁平で、いずれもたい節のほぼ全面に長毛が疎生する。

腹部第1~7節背にはきわめて小さいとげ状突起がほぼだ円環状に並ぶ。第8腹節は急に小さくなり、後縁に短毛が疎生する。また第8腹節腹面にも毛がある。ろく膜上には短毛が疎生する。

体長 約 9 mm, 前胸背幅 約 2.2 mm。

この記載に使用した標本は高知県足摺岬で、1968年6月15日、イヌビワ (*Ficus erecta* Thunb.) の枯枝より採集した。

#### *Ropica coenosa* (Matsushita) フタモンサビカミキリ

体はほぼ円筒形で細長い。乳白色を呈する。顔面には短毛が疎生する。上しんの中央には長毛が横に2列に並び、先端近くは長毛が疎生する。触角はさやばねの縁にそって下降し、さやばねの先端のところで曲って腹面にあらわれ、左右の触角はたがいに交さる。

前胸はほぼ円筒状で、前胸背全面に短毛が疎生する。中胸小たて板、後胸背は平滑。あしに毛はない。

腹部第1~7節背では果粒状突起がほぼだ円環状にならび、第6~7腹節では前方の果粒状突起はほぼ2列となる。第8腹節背ではとげ状突起が前縁近くに6~8本1列に並ぶ。第9節端にはこまかい果粒状突起が環状に6~8個ならぶ。ろく膜には1~3個のとげ状突起と毛があり、第7~8腹節では長くて大きい。

体長 約 10.5 mm, 前胸背幅 約 2 mm。

この記載に使用した標本は沖縄首里で、1961年4月17日 ソウシジュ (*Acacia confusa* Merr.) の枯木から採集した。

#### *Aulaconotus pachypezoides* Thomson タテジマカミキリ

Kojima (1929) Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ. 10 (2)

体は円筒形で乳白色、触角間はやや狭く頭頂は著しくV字状にくぼむ。顔面は毛は少なく、頭頂に2~3本と複眼の周囲に2~3本の毛が縦に並ぶ。上しんは丸味を帯びた三角形で基部に横に1列、10本の毛が並び、中央に20本の毛が横にならぶ。触角は体側にそって下降し、腹部第5節端で曲って腹面にあらわれ、腹面を平行にのびて頭頂に達し、そこで曲って先端は触角第1節背に達する。

前胸は円筒形で前胸背のほぼ全面に毛が疎生するが中央と側部ではやや密。中胸小たて板、後胸背は平滑。

腹部第1節背は後縁にほぼ1列、とげ状突起が並び、第2~6腹節背では中央の横溝の前後に2~3列、とげ状突起が並ぶ。第7~8腹節背では不規則に全体にとげ状突起が疎生する。とげ状突起は後方の節になるにつれて大きく、強く曲る。第6腹節のろく膜に3本、第7腹節に4~5本、第8腹節に6~7本の長毛がある。第9腹節端に短毛がやや密生し、また、第9腹節端の背面はキチン化し黄かっ色となる。腹面にも短毛が疎生。

体長 約 23 mm, 前胸背幅 約 4.5 mm。

この記載に使用した標本は広島県高野で、1962年7月20日、ヤマウコギ (*Acanthopanax spinosus*

Miq.)の生木と、香川県象頭山で1966年7月20日、カクレミノ (*Dendropanax trifidus* Makino)の生木から採集した。

*Pothyne silacca* Pascoe シロスジドウボンカミキリ

体は円筒形で乳白色。触角間はずせまく頭頂はV字状にくぼむ。顔面は長毛がほぼ全面に疎生しているが、正中部の毛は短い。上しんの基部に横に1列、ほぼ中央に横に1列、毛が疎生する。触角は体側にそって下降し、第5腹節端で曲って腹面にあらわれ、腹面を上へのび、先端は頭頂で曲って触角第1節背に達する。触角基部の上部に短毛が疎生する。

前胸は円筒形で、後縁近くがわずかにくびれている。前胸背の前縁の中央部と中央横にはほぼ1列、短毛が疎生する。後縁に4本のやや長い毛がある。中胸小たて板、後胸背は平滑。前・中あしのたい節端を短毛が2列、環状にとりかこむ。

腹節背はこまかいとげ状突起が全体に不規則に疎生するがタテジマカミキリに比べて少ない。第7腹節背の前縁近くに、4本のやや大きいとげ状突起が横に並ぶ。第8・9腹節背は短毛がやや多い。また、第9腹節端背はキチン化せず、毛がやや密生する。ろく膜に4~5本の長毛がある。

タテジマカミキリに似るが、検索にあげた後あしのふ節端の位置のほか

1. 第9節背の後縁がキチン化していない。
2. 腹節背のとげ状突起が不規則に並び、少ない。
3. 第7腹節背に4本のやや大きいとげ状突起がある。
4. たい節端に短毛がある。
5. 頭頂のV状のくぼみが浅く、鈍角である。

などの諸点で容易に区別できるが、これらの区別点は属の特徴か、種の特徴かは不明である。

体長 約15 mm, 前胸背幅 約3 mm。

この記載に使用した標本は、高知市で1968年11月5日、ウメ (*Prunus mume* Sied. et Zucc.)の枯枝から採集した。

*Abryna coenosa* (Newman) サビアカミキリ

小島圭三・渡辺弘之・国吉清保(1964)日本応用動物昆虫学会誌 8 (1)

体は円筒形で乳白色。頭頂には左右に1対の短剛毛がある。顔面には毛が少く、触角基部、複眼近くに数本の短毛が疎生する。上しんは平滑で先端近くに短剛毛が疎生する。触角は体側にそって下降し、中あしたい節端のやや下方で曲り、先端は前あしけい節に達する。触角第3節以下の節は横しわが多い。

前胸は円筒形で、幅が広く、前方より約半のところに1対のきわめて鈍角の胸側突起がある。前胸前縁に黒かっ色の乳頭状突起が左右に2個ずつあり、短毛がその突起上にある。平滑で、短毛が疎生する。各あしのたい節に短剛毛が疎生する。

腹部第1~7節背には黒かっ色の果粒状突起が全面に疎生するが、前縁と後縁では1部、横列状となる。また、果粒状突起より短毛が生ずる。

第8腹節背では正中部を残し左右に果粒状突起が疎生する。第5~8節のろく膜上に3個のとげ状突起がある。第9腹節端には5個のとげ状突起がある。

体長 約19 mm, 前胸背幅 約6 mm。

この記載に使用した標本は国吉清保氏が1961年6月1日、沖縄南明治山でタケの1種の生木から採集した。

付記：一見、ゴマフカミキリ属、サビカミキリ属のさなぎに似ているが、ゴマフカミキリ属のさなぎとは

1. 頭頂がV字状にくぼまない。
2. 腹背に果粒状突起が疎生し、かぎ状突起がない。
3. 第9腹節端に大きなとげ状突起がない。
4. 各あしのたい節の全面に短剛毛が疎生する。

などの諸点で、また、サビカミキリ属とは

1. 触角が中あしのやや下方で腹面にあらわれ、だ円環状にかかる曲る。
2. 腹節背にとげ状突起がない。
3. 顔面に毛が少ない。

サビアヤカミキリと次種ハイロヤハズカミキリのさなぎとは概形が酷似し、ゴマフカミキリ属、サビカミキリ属以上によく似ている。しかし、つぎの諸点で区別できる。

1. 胸側突起がない。
2. 後あしが短かく、たい節端のほとんどはさやばねの下にかくれ、ふ節端はさやばね端と重なる。
3. 上しんの毛が多い。
4. 第9腹節端のとげ状突起が多い。

#### *Niphona furcata* Bates ハイロヤハズカミキリ

松下真幸 (1940) 昆虫界 8 (77)

体は円筒形で頭部より第6腹節までは幅が等しい。胸側突起のない点を除き、概形はサビアヤカミキリによく似る。触角間はやや広く、頭頂は浅くくぼむ。触角基部をとりまくように3本の短毛がある。顔面の中央のやや下方に6本の短毛が横に並ぶ。上しんの中央に横帯状に短剛毛が密生し、先端にも短剛毛が密生する。大あごに毛が2本ある。小あごひげの先端近くに2本の毛がある。触角は体側にそって下降し、さやばねの前方より約2/3のところ、曲って腹面にあらわれ、軽くだ円環状にまがって、先端は前あしたい節に達する。

前胸は円筒形で正中溝は明りょうで幅広く、前縁と中央の正中溝の左右に小さいとげ状突起が疎生し、短毛がある。中胸小たて板、後胸背とも正中溝は幅広く、この左右に小さなとげ状突起と短毛が疎生する。あしは短く、前あしと中あしは扁平。後あしの大部分はさやばねの下にかくれ、たい節端がわずかに側方につき出し、ふ節端はさやばね端とほぼ同一一致する。

胸部第1～6腹節背ではとげ状突起がほぼ環状にならび、前方の正中部付近では二重または三重となる。第7腹節ではほぼ全体に不規則に疎生し、第8腹節では背面中央に疎生する。第9腹節の背面にはとげ状突起を欠き、第9腹節端の左右に10個のとげ状突起がある。第3～7腹節のろく膜上に2個のとげ状突起と短毛がある。腹面の側部に2～3本の短毛がある。

体長 約 19.5 mm, 前胸背幅 約 5 mm。

この記載に使用した標本は 1970 年 9 月 9 日、高知県野市でホウライチク (*Leleba multiplex* Nakai) から採集した。

#### *Pterolorhia caudata* (Bates) トガリシロオビサビカミキリ

中村慎吾 (1956) 生態昆虫 5 (12)

体は円筒形で細長く、乳白色。頭頂は短毛が疎生し、顔面は触角基部、複眼の周囲にやや長い毛が疎生する。また、前額に短毛がわずかに疎生する。上しんは先端と中央部に、ほぼ1列横に長剛毛が並ぶ。触角はさやばねの縁にそって下降し、さやばねの先端にそって曲って腹面にあらわれ、先端は軽く湾曲して後あしのふ節下に達する。

前胸はほぼ円筒形で、前胸背の全面にこまかい果粒状突起と短毛があり、前半と側縁がやや密。

中胸たて板、後胸背板は正中部を残してほぼ全体に短毛が疎生する。あしのたい節に短毛が疎生する。

腹部第1～7節背にとげ状突起が環状に並ぶが第5～6腹節の前縁の一部では2列になり、第7腹節では中央に2個、その下に5～6個が横にならび、それをさらに環状にとりまいている。第8腹節は小さく前縁に1列、6～8個のとげ状突起がある。第9腹節は7～8個のとげ状突起が側部から腹面にかけてそれぞれ疎生する。各腹節のろく腹には5～6個のとげ状突起があり、長毛がある。尾端にも長毛があり、腹面の側部には短毛が疎生する。

体長 約 14 mm, 前胸背幅 約 4 mm。

この記載に使用した標本は1952年5月25日、高知県松葉川でフジ (*Wisteria floribunda* D.C.) の枯づるから、また広島県比和で1956年9月30日、フジの枯づるから採集した。

*Pterolophia japonica* Breuning エゾサビカミキリ

前種に酷似するが、つぎの諸点でかろうじて区別できる。

1. 全体に毛がトガリシロオビカミキリより多く、長い。
2. 頭頂に毛が多い。
3. 顔面に短毛が疎生しているが、複眼・触角の周囲に3～4本の長毛がある。
4. 腹節背のとげ状突起は小さく先端はあまり曲らない。
5. 第9腹節端のとげ状突起が少ない。

体長 約 9 mm, 前胸背幅 約 2.5 mm。

この記載に使用した標本は1951年5月7日、静岡県仁科でケヤキ (*Zelkova serata* Thumb.) の枯木から採集した。

*Pterolophia zonata* (Bates) アトジロサビカミキリ

中村慎吾 (1956) 生態昆虫 5 (12)

エゾサビカミキリに酷似するが、*Pterolorhia* 属の他種とは次の諸点でかろうじて区別できる。

1. 腹節背のとげ状突起は最も小さく、先端は曲らない。前縁と後縁にほぼ1列並ぶ。
2. 前胸背にはとげ状突起はなく、短毛が全面に疎生し、アトモンサビカミキリ、ワモンサビカミキリ、ナカジロサビカミキリより密。
3. 尾端の左右にそれぞれ7～8個のとげ状突起があるが、先端は曲らず、円すい形。

体長 約 9 mm, 前胸背幅 約 2.5 mm。

この記載に使用した標本は横浜市本牧で、1951年4月22日、ヤツデ (*Fatsia japonica* Decnt. et Planch.) の枯木と1952年5月26日、広島県比和でクリ (*Castanea crenata* Seib. et Zucc.) の枯枝から採集した。

*Pterolophia rigida* (Bates) アトモンサビカミキリ

アトジロサビカミキリ、ワモンサビカミキリ、ナカジロサビカミキリに酷似するが、次の諸点でかろうじて区別できる。

1. 前胸背は前縁と中央にやや長い毛が横に並び、全面に疎生しない。
2. 腹節背のとげ状突起はほぼ環状にならび、小さいが先端は曲っている。
3. ろく膜上に5～6個の果粒状突起と長毛がある。(アトジロサビカミキリ、ナカジロサビカミキリより多くしかも長い)

体長 約 11.5 mm, 前胸背幅 約 3 mm。

この記載に使用した標本は1950年8月31日と、1950年9月1日、静岡県気田でクリ (*Castanea*

*crenata* Seib. et Zucc.) とフジ (*Wistaria floribunda* D. C.) の枯枝から採集した。

*Pterolophia annulata* (Chevrolat) ワモンサビカミキリ

トガリシロオビサビカミキリに酷似するが、つぎの諸点でかろうじて区別できる。

1. 上しんの中央に横帯状にやや長い毛の密生した部分がある。
2. 顔面に毛が少ない。
3. 前胸背前縁と中央に短毛と果粒状突起が疎生し、前胸背全体に疎生していない。
4. 中胸たて板、後胸背に毛が少ない。
5. 尾端には左右それぞれ5個の先端の曲ったとげ状突起がある。

体長 約 13 mm, 前胸背幅 約 3.5 mm。

この記載に使用した標本は高知県日章で1962年11月22日、ニセアカシア (*Robinia pseudo-acacia* L.) の枯枝から採集した。

*Pterolophia jagosa* (Bates) ナカジロサビカミキリ

アトモンサビカミキリ、アトジロサビカミキリに酷似するが、つぎの諸点でかろうじて区別できる。

1. 前胸背に毛が少なく、前縁と中央にほぼ1列、長毛が疎生する。
2. 腹部第1節背は1列、第2～7腹節背はほぼ環状にとげ状突起がならび、先端がやや曲がる。アトモンサビカミキリより小さい。
3. ろく膜上に7～8個の果粒状突起と長毛がある。
4. 尾端のとげ状突起は大きく、5個が左右にある。とげ状突起は円すい形で太く、先が曲らない。

体長 約 9.5 mm, 前胸背幅 約 2.5 mm。

この記載に使用した標本は1956年9月18日、広島県比和でクワ (*Morus bombycis* Koidz.) の枯枝から採集した。

*Psacotha hilaris* (Passoe) キボシカミキリ

Kojima (1931) Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ. 11 (3)

体は円筒形で乳白色。触角間はやや狭く、頭頂は深くV字状にくぼむ。触角基部に8本の短剛毛、複眼のはほぼ中央の外側に7本の短剛毛がややかたまっている。顔面のはほぼ中央に八字状に3本ずつの短剛毛列がある。上しんは平滑で基部の左右に各3本、後半に短毛が疎生する。触角は体側にそって下降し、中あしの下方で腹面にあらわれ、腹面で3.5回まく。大あごに4本の短剛毛がある。前胸には1対の胸側突起があるが小さく、鈍角である。前胸背は前縁付近と後縁の中央から逆八字状に短剛毛のやや発生した部分がある。中胸たて板、後胸背も逆八字状に短剛毛が疎生する。

腹部第1～4節背は正中部を残して後縁に短剛毛のやや密生した部分があるが、ゴマグラカミキリ、シロスジカミキリなどのようにピロウド状にはならない。第5～6腹節ではほぼ1列に短剛毛が疎生する。第7～8節ではやや長い剛毛が後縁近くに疎生する。尾端針状突起は明りょうで円すい形。その左右にそれぞれ10個の大きな円すい形のとげ状突起と長毛がある。腹面、ろく膜は平滑。

体長 約 22 mm, 前胸背幅 約 5 mm。

この記載に使用した標本は1949年7月17日、東京でイチジク (*Ficus carica* L.) の生木から採集した。

*Anoplophora malasiaca* (Thomson) ゴマグラカミキリ

体は円筒形でやや幅が広く、乳白色。顔面全体に黒かっ色の短剛毛が疎生するが触角基部に5～

8本ややかたまっている。上しんは後方約 $\frac{1}{3}$ のところに短剛毛が疎生する。大あごには剛毛がない。触角は短く、中あし上で2回まく。(♀では軽く1回まき、先端は中あしたい節端に達する)

前胸には1対の胸側突起があり、大きく突出する。前胸背の前縁と中央に4か所、短毛が10~14本かたまった部分がある。胸側突起の基部に短剛毛が疎生する。中胸たて板、後胸背には短剛毛が逆八字状にやや密生した部分がある。

第1~7腹節背の後半は、正中部を残して、やや長い毛の密生した部分があり、ピロウド状に見える。第9腹節背は円すい形に膨出し、その先端はキチン化し扁平。その左右に2~3個のとげ状突起がゆ着して扁平となったものがあり、背面からみたとき、尾節背はきょ歯状となる。尾端の腹面の左右に6個のとげ状突起がある。

体長 約 32 mm, 前胸背幅 約 7 mm。

この記載に使用した標本は1963年6月、香川県直島でヤシヤブシ (*Alnus firma* Sieb. et Zucc.) の生木から、また1967年6月7日、広島市でモミジバズカケ (*Platanus acerifolia* Wild.) の生木から採集した。

#### *Mecynippus pubicornis* Bates イタヤカミキリ

藤村俊彦 (1956) あきつ 5 (2)

体は円筒形で乳白色。顔面にはキボシカミキリと同様、全面にかっ色の短剛毛が疎生しているが、触角基部などかたまっている部分はない。上しんはほぼ全体に短剛毛が疎生する。

大あごに4本の短剛毛がある。触角は中あしのやや下方で腹面にあらわれ、さやばね上で1.5回まく。

前胸には1対の胸側突起があり、大きく鋭い。前胸背は短毛が少なく、後縁中央より胸側突起に向って疎生する。中胸たて板、後胸背とも平滑で、きわめて短い剛毛がわずかに疎生する。

腹部第1~7節背の後縁に短毛のやや密生した部分があるが、マゴドラカミキリより疎で、ピロウド状にみえない。尾端針状突起は円すい形で、基部に短毛が密生する。第9腹節端にやや長い毛が密生する。

体長 17~19 mm, 前胸背幅 約 4 mm。

この記載に使用した標本は静岡県二俣で、1957年5月7日、カワヤナギ (*Salix gracilistyla* Miq.), 1960年5月3日、広島県西城油木で、また1960年6月12日、広島県高野でナガバノカワヤナギ (*Salix gilgiana* Seemen) の生木から採集した。

#### *Xenicotela pardalina* (Bates) チャボヒナゲガカミキリ

川村 満・小島圭三 (1965) げんせい (15)

体は円筒形で乳白色。触角間はやせまく、頭頂は深くV字状にくぼむ。頭頂の左右にそれぞれ1本の短剛毛がある。顔面には短毛が少なく、触角基部に3~4本、複眼の周囲に3~4本の短剛毛が疎生する。上しんは基部左右に各3本、中央に横に1列6~8本の短剛毛がある。大あごに2本の短剛毛がある。触角は体側にそって下降し、さやばねの約 $\frac{2}{3}$ の部分で腹面にあらわれ、4回まく。

前胸に1対の胸側突起があるが小さく、鈍角である。突起に5~6本の短剛毛がある。前胸背には前縁と中央に横に2列と後縁に短剛毛が並ぶ。中胸たて板、後胸背にはそれぞれ逆八字状にごくわずかの短剛毛が並ぶ。たい節端に短剛毛がある。

腹部第1~7節背ではこまかい赤かっ色の果粒状突起が正中縁部を残して後縁に並び、そこから短毛が疎生する。後方の節に向うに従って果粒状突起の数はへるが、毛は長くなる。ろく膜には小さい果粒状突起が3~4個あり長毛が疎生する。腹面に短毛が疎生する。尾節端に6個の円すい形

のとげ状突起があり、やや長い毛が疎生する。

体長 12~15 mm, 前胸背幅 約 3 mm。

この記載に使用した標本は1964年4月16日、高知県土佐高岡でネーブルオレンジ (*Citrus sinensis* Ospeck. var. *brasiliensis* Tanaka) の枯木から採集した。

*Monochamus alternatus* Hope マツノマダラカミキリ

Kojima (1931) Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ. 11 (3)

体は円筒形で乳白色。複眼間はせまく、頭頂はV字状に深くくぼむ。顔面には短剛毛が疎生しているが、触角基部と複眼の周囲ではほぼ2列、孤状にならぶ。上しん基部の左右に3本の剛毛がそれぞれあり、上しんは先端と側縁に短剛毛が疎生し、中央は大部分平滑。大あごに2本の短剛毛がある。触角は体側にそって下降し、中あしのやや下方で腹面にあらわれ、さやばね上で3.5回まく(♀では1.5回まく)

前胸には1対の胸側突起があり、大きく突出する。前胸背は短剛毛が、前縁と背面中央に逆八字状に疎生する。中胸小たて板と後胸背にも逆八字状に短剛毛が疎生する。各あしのたい節に短剛毛がある。

腹部第1~6節背の後縁は正中部を残して短剛毛がやや密生し、第7節では少なくなる。

剛毛はキボシカミキリに似るがはるかに短小。第9腹節背には明りょうな尾端針状突起があり、キボシカミキリ、ゴマダラカミキリ、イタヤカミキリ、チャボヒゲナガカミキリなどに比べて大きく、鋭い。尾節端の左右に5個のとげ状突起があり、短毛が疎生する。ろく膜は平滑。

体長 約 30 mm, 前胸背幅 約 4.5 mm。

この記載に使用した標本は1951年、東京目黒でアカマツ (*Pinus densiflora* Seib. et Zucc.) と広島県可部で1964年6月、アカマツの材中から採集した。

*Monochamus grandis* Waterhouse ヒゲナガカミキリ

Kojima (1931) Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ. 11 (3)

本種は標本が入手できなかったので、小島俊文(1931)の記載を引用する。

雄の個体は体長 34.8 mm, さやばねの基部幅 9.2 mm, 顔面は正中線が深く、剛毛が疎生。上しんの前半に剛毛があり、基部に3~4本の剛毛がある。頭頂の前側部に若干の剛毛がまっすぐに並ぶ。触角は3.5回まく。前胸背は剛毛を疎生し、前縁と後縁はわずかに稜状となり、1対の明りょうな胸側突起を持つ。中胸は小たて板をかこみ、果粒状突起と剛毛がある。後胸は剛毛をもち果粒状突起はなく、前縁と後縁は稜状となる。腹部は第3腹節で最も幅広く、第1~6腹節背は正中部を残して剛毛を装う。第7腹節背では後縁にだけ剛毛がある。第8腹節は小さく、基部に剛毛とキチン化したとげ状突起を装う。第9腹節端にキチン化した尾端針状突起がある。第8腹節腹板に2本の剛毛がある。雄の腹板後方の部分は台形で中央に大きい深い横断線状のくぼみがある。気門は長卵形。第1腹節の気門は傾き露出する。

*Monochamus urssovi* (Fischer) シラフヨツボシヒゲナガカミキリ

マツノマダラカミキリに酷似しているが、つぎの諸点でかろうじて区別できる。

1. 触角は短く、3回軽くまく。
2. 前・中あしが長く、中あしのたい節端は第3腹節のほぼ中央に達する。(マツノマダラカミキリは第1腹節端に達する。)
3. 尾端のとげ状突起は大きく、やや長い毛が疎生する。

体長 28~30 mm, 前胸背幅 約 6 mm。



この記載に使用した標本は1957年5月18日、北海道大雪山でエゾマツ (*Picea jezoensis* Carr.) から採集した。

*Monochamus sutor* (Linné) ヒメシラフヒゲナガカミキリ

Kojima (1931) Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ. 11 (3)

ヒメシラフヒゲナガカミキリの成虫の体長は14~28 mmであるが、小島俊文(1931)の記載によると35.5~37 mmとさなぎの体長は成虫の体長よりはるかに大きく、使用した標本がヒメシラフヒゲナガカミキリであったかどうか疑問があるが、標本を入手して検討することができなかったので、小島俊文(1931)の記載を引用する。

2個体の体長は35.5~37 mm, さやばね基部の幅9~9.7 mm。つぎの諸点を除いてヒゲナガカミキリに酷似する。頭頂は側面からみたととき丸くカーブする。触角は♂で3回, ♀で1回まく。前胸前縁の稜を欠く。胸側突起は特に鋭い。小たて板の果粒状突起は密。小たて板の縁は丸く、深い溝で2分される。腹部第1~4節はほぼ同幅。尾端針状突起はより長く鋭い。第8腹節腹板は♀では小さく台形で2分し、2個の大きな球状突起があり、♂はほぼ長方形で中央に大きな横断線状のくぼみがある。第1腹節の気門ははねでかくれる。

*Monochamus saltuarius* Gebler カラフトヒゲナガカミキリ

マツノマダラカミキリに酷似するが、

1. 体長が20 mm以下で、小さい。
2. 尾端針状突起が細く小さい。尾節端の左右のとげ状突起が小さく、数が少ない。(3個。マツノマダラカミキリは3~6個, 5個の場合が多い。)
3. 大あごの剛毛が3本。

の諸点でかろうじて区別でき、次種とは

1. 体がやや幅広で、ずんぐりしている。
2. 尾端に毛が少ない。
3. ろく膜が平滑で毛がない。

の諸点でかろうじて区別できる。

体長約14 mm, 前胸背幅約3.5 mm。

記載に使用した標本は越智鬼志夫氏が1967年3月20日と、4月8日とに高知市でアカマツ (*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.) の枯木から採集した。

*Monochamus subfasciatus* Bates ヒメヒゲナガカミキリ

中村慎吾(1958) ニュー・エントモロジスト 7 (1)

カラフトヒゲナガカミキリに酷似するが、つぎの諸点でかろうじて区別できる。

1. 体幅が小さくやや細長い。
2. 第1~6腹節背にこまかい果粒状突起があり、長毛が疎生する。(カラフトヒゲナガカミキリでは短毛のみが疎生する。)
3. ろく膜に短毛が疎生する。

体長約13 mm, 前胸背幅約3 mm。

記載に使用した標本は高知県足摺岬で1966年4月1日、ハドノキ (*Villebrunea pedunculata* Shirai) の枯木から採集した。

*Acalolepta luxuriosa* (Bates) センノカミキリ

体は円筒形で乳白色。触角間はあまり強くくぼまない。頭頂に2本の短剛毛が左右にあり、顔面は中央を広く残してほぼ環状に2列の短剛毛が並ぶ。上しん基部に2本の短剛毛が左右にあり、上しん中央側部近くに7～8本の短剛毛がかたまり、先端にも短毛がやや密生している。大あごには短剛毛が2本ある。

触角は体側を下降し、さやばねの先端近くで腹面にあらわれ、さやばね上で2回まく。(♂は2回よりやや長い)。

前胸には1対の胸側突起があるが、太く、あまり鋭くない。胸側突起上に5～6本の短剛毛が疎生する。前胸背の前縁に短毛が疎生し、後縁中央より胸側突起にかけて逆八字状にかかるく膨出し、その部分に短毛が疎生する。中胸小たて板、後胸背にも逆八字状に短毛が疎生するが少ない。各あしのたい節端には短毛がある。

腹部第1～7節背の後縁は正中部を残して、こまかい針状突起が2～3列不規則にならび、長毛が疎生する。第8腹節背には5本の針状突起が横に並ぶ。尾端針状突起はなく、背面中央は円すい状に膨出せず、背面に他のとげ状突起よりわずかに長いとげ状突起がある。そしてその左右に2本のとげ状突起がある。ろく膜、腹面は平滑。尾節端にやや長い毛が疎生する。

体長 約 28 mm, 前胸背幅 約 5.5 mm。

この記載に使用した標本は1951年5月27日、横浜本牧でヤツデ (*Fatsia japonica* Decne. et Planch.) の枯木から採集した。

*Acalolepta permutans paucipunctatus* (Gressitt) キンケビロウドカミキリ

前種に酷似するが、つぎの諸点でかろうじて区別できる。

1. 触角が長く、3回以上まく。
2. 第1～7腹節背のこまかい針状突起は少なくて疎。毛が短い。
3. 第8腹節背に4本のとげ状突起がならぶ。

体長 約 25 mm, 前胸背幅 約 5 mm。

この記載に使用した標本は國吉清保氏が1961年4月15日、沖縄首里でオキナワトベラ (*Pittosporum lutchuense* Koidz.) から採集した。

*Batocera lineolata* Chevrolat シロスジカミキリ

体は円筒形で乳白色。顔面は触角基部から複眼の周囲にかけて黒かっ色の短剛毛がほぼ2列に並び、中央にきわめてわずかに不規則に疎生する。上しんはほぼ三角形で先端より側部にかけて約3～4列、短剛毛がならぶ。大あごの中央の側方に16本の短剛毛がある。触角は体側にそって下降し、中あごの下方で腹面にあらわれ、さやばね上で約2回まき、触角の上部は前あごのけい節を被覆する。

前胸には1対の胸側突起があるが、大きく、かつ鋭い。前胸背には逆八字状に剛毛が疎生する。中胸小たて板、後胸背に逆八字状に短剛毛の密生した部分がある。

腹部第1～7節背の後縁には、正中部を残して赤かっ色の短毛が密生した部分があり、ピロード状にみえる。短毛の密生部は後方節ほど小さくなり、毛も疎となる。第9腹節背の中央は円すい状に膨出し、その部分は短毛が疎生する。ろく膜上は毛やとげ状突起を欠き平滑。

体長 約 64 mm, 前胸背幅 約 11 mm。

この記載に使用した標本は1967年6月7日、広島市でクヌギ (*Quercus acutissima* Carrath.) の生木から採集した。

*Apriona japonica* Thomson クワカミキリ

前種に酷似するが、つぎの諸点で区別できる。

1. 前胸背，中胸たて板，後胸背の剛毛が少く，中胸たて板，後胸背では前種のように密生してピロード状とならない。
2. 腹節背後縁の短毛帯も，短毛がやや疎。
3. 触角第3節は短く，腹面からみたとき，前あしの下に第3節端がかくれず，はっきりみえる。
4. 触角はやや短く，♂で約1.4回まく。(♀は前種と同様1回まく)
5. 各あしのたい節，けい節が短く太い。

体長 ♂約31 mm，♀約42 mm。前胸背幅 ♂約7 mm，♀約10 mm。

この記載に使用した標本は1964年6月4日，高知県南国市でイチジク (*Ficus carica* L.) の生木から，採集した。

付記：ゴマグラカミキリはクワカミキリ，シロスカミキリとは別族のヒゲナガカミキリ族にふくめているが，さなぎの形態からは腹節背の後縁に短剛毛が密生し，ピロード状にみえる部分があること。触角が2回以上まいていないことなど共通点が多く，シロスジカミキリ族に近い形態を示している。ゴマグラカミキリはクワカミキリ，シロスジカミキリとは尾端(第9腹節)の背面中央の形態や，大あごの剛毛の有無などで容易に区別できる。

#### *Palimna liturata* (Bates) ヒゲナガゴマフカミキリ

体は円筒形でやや幅が広く，乳白色。顔面は平滑で短毛をほとんど欠き，触角基部近くに2~3本ある。上しんのほぼ中央に，短剛毛が横帯状にやや密生し，先端には短毛がない。大あごにはきわめて短い剛毛が2本ある。触角は体側にそって下降し，さやばねの先端のところで曲って腹面にあらわれ，さやばね上で2回まく。

前胸には1対の胸側突起があり，突起は太くて短い。前胸背は短毛がきわめてわずか疎生。中胸小たて板，後胸背は平滑できわめてわずか疎生する。あしは長く，後あしのたい節は第6腹節端のやや下方に達する。たい節端に短剛毛が疎生する。

腹部第1~6節背の後縁にはこまかいとげ状突起がほぼ2列(側部近くでは1列)並ぶ。第7~8節はとげ状突起を欠き平滑。わずかの短毛が疎生する。尾端針状突起は鈍角で針状とならず，中央がややくびれている。第9腹節腹面の左右に8個のとげ状突起と毛が疎生する。

体長 約16 mm，前胸背幅 約4.5 mm。

この記載に使用した標本は1959年6月28日，高知県手箱山でミズナラ (*Quercus mongolica* Fischer var. *grosseserrata* Rehd. et Wils.) の枯木から採集した。

#### *Rhodopina lewisii* (Bates) セミスジコブヒゲカミキリ

体はやや細長い円筒形で乳白色。顔面には短毛が少なく，複眼の近くにV字状に2列の短毛があり，それぞれ8~10本並ぶ。上しん基部の左右に3本ずつ短毛があり，上しん中央は1列，やや長い毛が約10本疎生する。大あごにはやや長い剛毛が1本ある。触角は長く，さやばねの先端で曲って腹面にあらわれ，さやばね上で4回まく。触角で中あしのたい節やけい節をかくさない。触角第1節はとっくり状で後方近くがふくらみ，触角第3節も長く，棍棒状。

前胸に1対の胸側突起をもつが小さく，鋭くない。胸側突起に2本の長毛がある。前胸背の前半に不規則に短毛が疎生し，また，後縁の中央から胸側突起へ逆八字状に軽く膨出し，その部分に約20本の短毛が疎生する。中胸小たて板，後胸背には短毛がごくわずか，逆八字状に疎生する。たい節端に短毛が疎生する。

腹部第1~6節背の後縁には短剛毛がやや密にあり，側部には2~3本のやや長い毛がある。第7腹節背は5本の短毛が横に並ぶ。第8腹節端にはやや長い剛毛が3本ある。第9腹節背に尾端針

状突起があるが細くて短い。その左右にそれぞれ2個のとげ状突起と腹面の左右に4個のとげ状突起がある。ろく膜と腹面は平滑。

体長 約 18.5 mm, 前胸背幅 約 3.5 mm。

この記載に使用した標本は藤下章男氏が1965年5月21日, 広島県可部でシイタケのほだ木として使われたコナラ (*Quercus serrata* Thunb.) の枯木から採集した。

*Sybrodiboma subfasciata* (Bates) シロオビチビカミキリ

体は円筒形で乳白色。触角間は広く, 頭頂は軽く膨出する。頭頂の左右に3個の長いとげ状突起と毛がある。複眼上に縦に3個のとげ状突起と毛が並び, 顔面のほぼ中央に縦に, 3個のとげ状突起と毛が並び, 上しん基部に5個のとげ状突起と毛がある。上しんの中央に5~6本の長毛が横に並ぶ。大あごに長剛毛が2本ある。触角は体側にそって下降し, 中あしの下方で曲って腹面にあらわれ, ほぼ平行に上にのび, 先端はほおに達する。

前胸は前縁と後縁近くが軽くくびれ, 側部は膨出する。前胸背には前縁に横に1列, 中央に1対, 後方約 $\frac{1}{3}$ の部分に不規則に, それぞれやや長い先の曲ったとげ状突起と長毛が疎生する。中胸小たて板, 後胸背にもやや長いとげ状突起と長毛がある。あしは平滑。後あしは長く, たい節端は第7腹節にとどく。

腹部第1~6節背の後縁にはほぼ1列にとげ状突起と長毛が並ぶ。第7腹節背ではほぼ中央に1列とげ状突起と長毛が並ぶ。第8腹節背は中央に1対と側部に1個のやや長いとげ状突起と長毛をもつ。第9腹節背の中央を広く残して尾端の左右に, それぞれ10本のとげ状突起と長毛がある。腹面とろく膜は平滑。

体長 10.5~12 mm, 前胸背幅 2.5~3 mm。

この記載に使用した標本は1962年5月17日, 島根県仁多鯛の巣山で藤村俊彦氏がクリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) の枯枝から採集した。

*Olenecamptus formosanus* Pic タカサゴシロカミキリ

黒田祐一 (1950) 昆虫学評論 5 (1)

中村慎吾 (1951) ニュー・エントモロジスト 4 (1・2)

体はほぼ円筒形で乳白色。顔面はほぼ3角形で小さく平滑。上しん基部に3本の短毛があり, 上しんの後半に短毛が疎生する。大あごに2本の短剛毛がある。触角はきわめて長く, さやばねの先端近くで曲り, さやばね上で5回まく。触角は中あしたい節端の一部をかくす。各あしのたい節とけい節は長い。

前胸は胸側突起を欠き, 前胸前縁にきわめてこまかいとげ状突起が疎生し, 全体に短毛がきわめてわずか疎生する。中胸小たて板と後胸背は平滑。あしにはない。

腹部第1~6節背には, ほぼ環状に小さい果粒状突起が並び, 短毛が疎生する。第7~8腹節背は平滑。第9腹節背に小さい尾端針状突起があり, 尾端に2~3本のやや長い毛がある。ろく膜と腹面は平滑。

体長 10~14 mm, 前胸背幅 2.5~3 mm。

この記載に使用した標本は1956年12月1日, 広島県比和と1965年10月24日, 広島県高野でクリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) の枯木から, 1967年7月, 香川県小豆島でノグルミ (*Platycarya strobilacea* Sieb. et Zucc.) の伐採木から採集した。

*Jezohammus nubilus* Matsushita エゾナガヒゲカミキリ

下山健作 (1962) 昆虫学評論 14 (1)

体はやや紡錘形で幅広く乳白色。顔面は卵形で大きく、触角基部より複眼の周囲に3~4本の短毛がある他、平滑。上しん基部の左右に各3本、上しん中央に正中部を残して左右に各4本の短剛毛がある。大あごには2本の短剛毛がある。触角は体側にそって下降し、中あしの下方で曲って腹面にあらわれ、腹面で3回(早では約2回)まき、触角は前あしのけい節を被覆する。

前胸に1対の胸側突起があり、前胸背前縁と背面中央に14~16本、後方では逆八字状にそれぞれ毛が疎生する。中胸小たて板、後胸背にも逆八字状に毛が疎生する。あしは短く、たい節は正中線に対してほぼ直角につく。たい節端に短剛毛が2~3本ある。

腹部第1~6節背の後縁は正中部を残して左右に6~7本の短剛毛が横に並ぶ。第7~8節は平滑で3~4本の長毛がある。第9腹節背に円錐形の小さい尾端針状突起があり、尾端に毛が疎生する。腹面とろく膜は平滑。

体長 13~15 mm, 前胸背幅 約 3.5 mm。

この記載に使用した標本は1958年8月11日、青森県平賀で下山健作氏がニガキ (*Picrasma ailanthoides* Planch.) の枯木から採集した。

#### *Acanthocinus griseus* (Fabricius) ヒゲナガモモブトカミキリ

体はやや扁平で幅広く、乳白色。顔面は小さく微毛がわずかに疎生する。上しんは基部の左右に各3本の剛毛があり、上しんは平滑。大あごに毛がない。触角は体側にそって下降し、第6腹節端で曲って腹面にあらわれ、腹面をほぼ平行にのび、触角第1節上で曲って背面に向い、先端は触角第4節の中央に達する。

前胸は長さより幅が大きく、前方より約 $\frac{2}{3}$ のところは強く膨出し、先端にこまかい針状突起が1本ある。前胸背前縁と後縁に小さい果粒状突起が疎生する。中胸小たて板・後胸背は平滑。あしのたい節は太く棍棒状でたい節端に短剛毛が疎生する。けい節は細く、また、ふ節は長い。後あしのふ節は第7腹節に達する。

腹部第1~6節背の後縁にこまかいとげ状突起が不規則に疎生する。第7腹節背は中央にとげ状突起が疎生する。第8腹節は円筒形で細長く、中央側縁にやや長い毛ととげ状突起が2~3本あり、背面の前方より約 $\frac{2}{3}$ のところに2対のとげ状突起がある。尾端は背面を広く残して左右に各6個のとげ状突起がある。尾端針状突起はない。

体長 約 16 mm, 前胸背幅 約 3.5 mm。

この記載に使用した標本は1950年4月5日、静岡県気田でアカマツ (*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.) から採集した。

#### *Leiopus stillatus* (Bbtes) ゴマダラモモブトカミキリ

前種に似るが、つぎの諸点で容易に区別できる。

1. 触角は短く、先端は頭頂を越えて背面に達していない。
2. 頭頂より顔面にかけて剛毛が約7本並び、複眼の周囲に2個のとげ状突起と剛毛がある。
3. 上しん基部の左右に各3本の剛毛があり、上しんの後半に毛が疎生する。
4. 前胸側部が突出し、その先端に大きいとげ状突起を持つ。前胸背の前縁と後縁中央より逆八字状にとげ状突起が疎生する。
5. 腹部背面のとげ状突起はやや大きく密、第3~6腹節背では半円形に並ぶ。
6. 第7腹節背にとげ状突起がほぼ全面に疎生する。
7. 尾端の左右に約5本のとげ状突起があるが、いずれも大きくかき状に曲る。

体長 約 11.5 mm, 前胸背幅 約 3 mm。

この記載に使用した標本は1970年5月15日、高知県天狗高原でサルグワミ (*Pterocarya rhoifolia*

Sieb. et Zucc.) の枯木から採集した。

*Boninella degenerata* Gressitt オガサワラカミキリ

体は扁平で幅広く、乳白色。頭頂の左右に各1本、顔面の複眼の周囲に3~4本の長毛がある。上しん基部の左右に各3本の長毛があり、上しんは平滑。大あごに2本の剛毛がある。触角はさやばねの先端近くで曲って腹面にあらわれ先端は軽く曲って前あしたい節基部に達する。

前胸は長さよりやや幅が大きく、側縁は膨出する。前胸背前縁近くに短毛が疎生し、中央にやや長い1対の毛がある他は平滑。中胸小たて板、後胸背は平滑。各あしのたい節はふとく、たい節端に剛毛がある。

腹部第1~6節背は平滑。第7~8腹節背はほぼ1列に5~6本の毛が並ぶ。第9腹節背には小さい尾端針状突起があり、その左右に1対のとげ状突起がある。第9腹節腹面の左右にとげ状突起が各1本ある。腹面は平滑。ろく膜上に1本の毛を持つときがある。

体長 3.5~4.5 mm, 前胸背幅 約1.2 mm。

この記載に使用した標本は1970年3月29日、小笠原諸島(父島)でウラジロエノキ (*Trema argentea* Blume) の枯木から採集した。

*Miaenia bioculata* (Matsumura et Matsushita) フタツメケシカミキリ

前種に酷似するが、つぎの諸点で区別できる。

1. 体は扁平であるが、前種より幅がせまくやや細長い。全体、やや紡錘形となる。
2. 顔面の毛が短い。
3. 上しんの中央に短剛毛が4~5本、横に並び、大あごの剛毛はきわめて短い。
4. 前胸は丸味をおびた台形で、前胸背にやや長い毛が疎生する。
5. 第9腹節端の腹面の左右にある1対のとげ状突起は大きく、上方に強くかぎ状に曲る。

体長 約6 mm, 前胸背幅 約1.3 mm。

この記載に使用した標本は1970年3月28日、小笠原諸島(父島)でウラジロエノキの枯木と、1970年4月1日、同、母島でハチジョウグワ (*Morus kagayamae* Koidz.) と1970年4月3日、同、母島でモククチバナ (*Ardisia sieboldii* Miq.) の枯木から採集した。

*Excentrus lineatus* Bates アトモンマルケシカミキリ

体は細長くやや扁平で乳白色。頭頂の左右に各4本の長毛があり、顔面に毛が疎生する。

上しん基部の左右に各2本の短毛があり、上しん後半に短毛が疎生する。大あごに2本の短剛毛がある。触角は体側にそって下降し、中あしのやや下方で曲って腹面にあらわれ、先端は前あしたい節中央に達する。

前胸の側部は軽く突出する。前胸背のほぼ全面に短毛が疎生するが、前縁と側部では長毛がやや密生する。前胸腹面にも短毛が疎生する。あしは短く、各たい節は正中線に対してほぼ直角につく。たい節の全体に毛が疎生し、けい節にも毛が疎生する。中胸小たて板、後胸背にやや長い毛が逆八字状に疎生する。

腹部第1~7節背の後縁には、ほぼ1列、やや長い毛が疎生し、第7腹節のものは他の筋より長い。第9腹節背には尾端針状突起があるが小さい。その左右に2対のとげ状突起があり、尾端の腹面の左右に1対のとげ状突起があり、この突起は強く上方に曲る。腹面の側部に短毛が疎生する。

体長 約7 mm, 前胸背幅 約2 mm。

この記載に使用した標本は1964年5月12日、広島県呉で小阪敏和氏がニセアカシア (*Robinia pseudo-acacia* L.) の枯枝から採集した。

*Excentrus guttulatus* Bates シラオビゴマフケシカミキリ

中村慎吾・藤村俊彦 (1958) 比和科学博物館研究報告 (1)

前種に酷似し、識別が困難であるが、つぎの諸点でかろうじて区別できる。

1. 顔面の毛が少なく、毛が長い。
2. 前胸背, 中胸小たて板, 後胸背, 腹節背の毛が少ない。腹節腹面も毛が少ない。
3. けい節の毛が少ない。
4. 胸腹面に毛がない。

体長 約 7.5 mm, 前胸背幅 約 2 mm。

この記載に使用した標本は 1954 年 5 月 16 日, 東京府中で藤村俊彦氏がフジ (*Wistaria floribunda* D. C.) の枯枝から採集した。付記: *Excentrus* 属は外形から他属とはかなり容易に区別できるが, 種間の差異は少なく, 体表の毛の数・位置・配列はかなりの変異があり, 区別点となりにくく, シラオビゴマフケシカミキリの場合, アトモンマルケシカミキリに比べて相対的に少ない以外, 区別のしようがない。中村・藤村 (1958) はシラオビゴマフケシカミキリの記載の際に, クモガタケシカミキリ *Excentrus fasciolatus* Bates のさなぎについて触れたが, 今回, 標本が入手できず, 比較検討が不可能なので割愛した。当時, 両種の区別点を若干, 述べたが, *Excentrus* 属の多くの標本を調べたところ, 当時, 考えた区別点はかなり変異のある形質で区別点としては不充分であり, 同属内での区別が困難なので, クモガタケシカミキリのさなぎはシラオビゴマフケシカミキリより小さい以外, 差異点は見出せそうにない。*Cagosima sanguinolenta* Thomson ハンノキカミキリ

Kojima (1929) Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ. 10 (2)

体はほぼ円筒形で淡黄色。触角間幅広く, 頭頂部は浅くくぼむ。頭頂の左右に 2 本の長毛がある。顔面の両側はほぼ平行で, 顔面は三角形とならない。顔面には毛が少なく, 複眼の外側に 2 本の長毛が縦に並び, 上方の長毛の内側に短毛が 1 本ある。顔面の中央に 1 対の毛がある。上しん基部近くの左右に各 3 本の剛毛が横に並ぶ。上しんは先端近くの両側に各 2 本の剛毛がある。大あごには 3 本の短剛毛がある。触角は体側にそって下降し, 中あしの方で曲って腹面にあらわれ, 先端は前あしのけい節端に達する。

前胸は前縁と後縁近くが軽くくびれ, 側部のほぼ中央は膨出する。前胸背の前縁にはほぼ 1 列, 長毛とこまかいとげ状突起が疎生する。

前胸背中央にも 1 列, 後縁および側部では, 不規則に長毛ととげ状突起が疎生する。中胸小たて板と後胸背には逆八字状にとげ状突起と毛が疎生する。あしはやや扁平で, 剛毛がない。

腹部第 1~6 節背の後縁は軽く膨出し, とげ状突起と剛毛が 1 列に並ぶ。第 7 腹節背ではとげ状突起が円弧状に並ぶ。第 8 腹節背は 3~4 本の短毛があり, 側部のほぼ中央にはそれぞれ 2 個の果粒状突起があり, 突起上に長毛を装う。第 9 腹節背は正中部を広く残して, 左右に果粒状突起が 1 個あり, 長毛を装う。腹面の左右には 5 本の長毛と 2~3 本の短毛があり, いずれも小さい果粒状突起上に生じている。腹面とろく膜は平滑。

体長 18~22 mm, 前胸背幅 3.5~4 mm。

この記載に使用した標本は 1961 年 5 月 1 日, 広島県高野でハンノキ (*Alnus japonica* Thunb.) の生木からと, 1965 年 5 月 23 日, 高知県梶ガ森でケヤマハンノキ (*Alnus hirsuta* Torcz.) の生木から採集した。

*Menesia salphurata* (Gehler) キモンカミキリ

中村慎吾 (1960) 比和科学博物館研究報告 (3)

体は円筒形で乳白色。触角間は広く、頭頂は軽くくぼむ。顔面はほぼ三角形で複眼は大きい。頭頂の左右に長毛と短毛が各1本ある。複眼の上方から頭頂の中央へ向って八字状に3本の長毛が並ぶ。上しん基部の左右に2本の剛毛があり、上しんは平滑で毛がない。また、大あごにも剛毛はない。触角は体側をそって下降し、さやばねの前方より約 $\frac{3}{4}$ のところで曲って腹面にあらわれ、腹面をほぼ平行にのび、先端は複眼に達する。

前胸は円筒状で側部はあまり、膨出しない。前胸背の前縁、中央部、後縁近くにそれぞれ、ほぼ1列、小さいとげ状突起と毛が横に並ぶ。中胸小たて板は後方中央に5~6個のとげ状突起が疎生する。後胸背の後縁近くに1対、ほぼ中央の左右に各3個のとげ状突起がある。あしは毛がなく、やや扁平で平滑。

腹部第1~5節背の後縁に5~6個のとげ状突起が横に並び、第6腹節後縁は4本のやや長いとげ状突起が並ぶ。第7腹節背は6個の太いとげ状突起が並ぶ。第6~7腹節背のとげ状突起は上方に強く曲る。第8腹節背に小さいとげ状突起が3個あり、側部にやや長いとげ状突起が1個ある。第9腹節背は4個の小さいとげ状突起があり、その突起上に1本の毛を装う。腹面の左右に4~5個のとげ状突起と毛がある。腹面とろく膜は平滑。

体長 6.5~8 mm, 前胸背幅 1.6~1.8 mm。

この記載に使用した標本は1957年6月3日、広島県比和でサワグルミ (*Pterocarya rhoifolia* Sieb. et Zucc.) の枯木から採集した。

*Paramensia theaphia* (Bates) ジュウニキボシカミキリ

前種に似て、体は円筒形で乳白色。触角間は広く、頭頂はあまりくぼまず、顔面はほぼ三角形で複眼は大きい。頭頂の左右に2本の長毛があり、複眼の外側に2本の長毛がある。顔面のほぼ中央に1対の長毛がある。上しん基部の左右に各3本の剛毛があり、また、上しんのほぼ中央、横に4本の剛毛がほぼ等間隔に並ぶ。大あごに2本の剛毛がある。触角は体側にそって下降し、中あしのやや下方で曲って腹面にあらわれ、腹面を平行にのび、先端はわずか曲ってほおに達する。

前胸は円筒状で側部はあまり膨出しない。前胸前縁にほぼ1列16個のとげ状突起と長毛がある。中央部にとげ状突起が疎生し、長毛がある。中胸小たて板の中央に1対のとげ状突起がある。後胸背は後縁近くに1対、中央のやや上方の左右に、2本のとげ状突起が横に並び、突起上に毛を装う。あしは毛がなく、やや扁平で平滑。

腹部第1~6節背の後縁に6~7個のとげ状突起があるがいずれも、円すい状に膨出した先に、黒かっ色の細長い針状の突起がある。

第7~8節背には第1~6腹節より大きいとげ状突起がある。どの突起も前種のように先がまがらない。第9腹節端には7~8個の円すい形のとげ状突起が等間隔に並ぶ。腹面とろく膜は平滑。

体長 約8 mm, 前胸幅 約1.8 mm。

この記載に使用した標本は1960年4月29日、高知県手箱山でセンノキ (*Kalopanax septemlobus* Koidz.) から採集した。

*Eutetrappa chrysochloris* Bates ハンノアオカミキリ

中村慎吾 (1960) 比和科学博物館研究報告 (3)

本種の概形はハンノキカミキリに似る。頭頂はややくぼみ、その左右に1個のやや大きい乳頭状突起があり、その先端に2本の長毛がある。複眼の外側に、縦に長毛が4本並ぶ。(3~5本のももある。) 顔面の前方より約 $\frac{2}{3}$ のところに、長剛毛が4本横に並ぶ。上しんは先端近くの左右に



各2本の剛毛がある。大あごに3本の剛毛がある。触角は中あしのやや下方で曲り、腹面をほぼ平行にのび、先端は曲ってほおに達する。

前胸の側部は軽く膨出。前胸背の前縁に、正中部を残して、その左右に各4本の針状突起と毛が並ぶ。中央に1対のやや長い1対の針状突起と毛があり、後縁は後縁中央より側部にかけて逆八字状に各8個の針状突起と毛が疎生する。中胸小たて板には逆八字状にそれぞれ5~6本のとげ状突起と短毛が疎生する。後胸背は不規則に小さいとげ状突起と毛が後縁近くにあり、前方より約 $\frac{1}{3}$ のところ、正中線の左右に2本の針状突起と毛がある。

腹部第1~6節の後縁は膨出し、その上に正中部を残して左右に各6~8本の針状突起と毛がならぶ。第7腹節背の中央にやや大きいとげ状突起が円弧状にならび、側部中央にやや長いとげ状突起と長毛がある。第8腹節背は小さいとげ状突起が並び、側部中央に1本の長毛ととげ状突起がある。第9腹節背に2本の針状突起と長毛があり、腹面の左右に5個の針状突起があり、その上に長毛を装う。腹面とろく膜は平滑。

体長 約16 mm, 前胸背幅 約3.5 mm。

この記載に使用した標本は1961年4月1日、北海道十勝佐幌でオオバヤナギ (*Toisusu urbaniana* Kimura) から採集した。

#### *Praolia citinipes* Bates ヒゲナガヒメルリカミキリ

体は円筒形で、腹節は短く、さやばねは第6腹節端に達する。頭頂は平坦で、あまりくぼまない。頭頂の左右に2本の毛がある。触角の基部近くに3本の毛が縦にならぶ。上しん基部に3本の剛毛があり、上しんは毛はなく平滑。大あごに毛はない。触角は長く、体側にそって下降した後、さやばねの先端と同じ高さのところで大きく曲って腹面にあらわれ、胸面を斜め上にのびた後、胸部で左右の触角が接する。大あごの下で左右にわかれた触角は軽く、前胸腹面で1回環状にまく。

前胸背の前縁には4本、中央に4本、後縁近くに4本の黒かっ色の長剛毛がほぼ横に並ぶ。これらの剛毛はいずれも先端が細くならない。中胸小たて板、後胸背の後部中央に5~6本の長毛がある。あしは長く、後あしのたい節端は第7腹節の中央に達し、たい節は太くやや棍棒状。たい節端に短剛毛がある。

腹部の各節は他種に比べていちじるしく短い。腹部第1~6節は後縁に短剛毛が4~5本横に1列に並ぶ。第7腹節背に1対の針状突起があり、この左右に小さいとげ状突起がある。第9腹節端は8個のとげ状突起が環状に並ぶ。腹面とろく膜は平滑。

体長 約6.5 mm, 前胸背幅 約1.7 mm。

この記載に使用した標本は1970年6月25日、アブラチャン (*Parabenzoin praecox* Nakai) より衣笠恵士氏が採集したものを使用した。

#### *Thyestilla gebleri* (Faldermann) アサカミキリ

Kojima (1921) Jour. Coll. Agric. Tokyo. Imp. Univ. 10 (2)

本種のさなぎは入手できなかったので、小島俊文 (1929) の記載を引用する。

皮膚は白色であるがわずかに黄色気味。体長 15~18.6 mm, さやばねの基部の幅 3~3.5 mm。触角の各節不明りょうで、あしの第2対の後部に向って曲る。あしは腹面に強く固定されない。上しんは三角形で2対の剛毛を装う。顔面は触角間でくぼまない。約10対の剛毛が疎生。大あごと頭頂の前側部に2~3本の剛毛がある。

前胸側部は丸味があり、胸側突起はなく側部後縁は角ばる。側部中央は突出せず、1本の剛毛がある。中胸背は正中線が深くくぼみ、基部には毛をもつとげ状突起がある。中胸小たて板は三角形で平滑。後胸背は正中部が広くくぼみ、とげ状突起があり、その突起に毛を装う。

腹節は剛毛が横に並び、剛毛の基部は大きなとげ状突起となる。第9腹節腹面では後方に強く曲った大きなとげ状突起がある。雌の肛門と第8腹節腹面間の裂片は正中線で2分され、2個の果粒状突起を持つ。雄は平滑で四辺形。後縁がかっ色である。第1腹節の気門は斜めむきで、さやばねで被覆される。

*Glenea relicta* Pascoe シラホシカミキリ

体は円筒形で乳白色。頭頂はあまりくぼまない。頭頂の左右に各3個の長いとげ状突起と毛が縦に並ぶ。複眼上に縦に3~4個の長いとげ状突起と毛が縦に並ぶ。上しん基部近くの左右に長毛が2本ずつ並ぶ。上しんは中央の両側に2本の剛毛がある。大あごに2本の長剛毛がある。触角は体側にそって下降し、中あしは1節のやや下方で腹面にあらわれ、腹面を平行にのび、先端はほおに達する。

前胸は円筒形で側部はあまり膨出しない。前胸背前縁に正中部を残してその左右に各4個のとげ状突起と毛が並び、中央に1対、その下方の左右に、一状にとげ状突起と毛がある。中胸小たて板はほぼU字状にとげ状突起が並び、後胸では中央に逆八字状にとげ状突起が並び、後胸後縁の正中部に16個の小さいとげ状突起が疎生する。

腹部第1~7節背は14~15個のとげ状突起がU字状に並ぶ。第7腹節では側部近くに背面のものより長いとげ状突起が1個ある。第8腹節背は中央に正中部を残し、その左右に3個の長いとげ状突起と長毛がある。第9節端は背面を広く残して、左右に長いとげ状突起が側方につき出し、そこから腹面にかけて6~7個のとげ状突起と長毛が疎生する。腹面、ろく膜は毛がなく平滑。

体長 約12 mm, 前胸背幅 約2.8 mm。

この記載に使用した標本は1961年5月6日、広島県高野でクリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) の枯木から採集した。

*Gernea chlorospila* Gahan リュウキュウリボシカミキリ

梅谷献三・藤村俊彦 (1954) 昆虫 22 (1・2)

本種のさなぎは入手できなかったため、梅谷・藤村 (1954) の記載を引用する。

体は黄白色を呈するが羽化前各部が黒変する。頭部は半卵形を呈し、複眼は触角基部を半囲する。顔面に毛が散生し、複眼中にも3対が認められる。触角基部に生ずる2対の毛はとくに明りょうで長毛及び刺毛が1か所より生ずる。触角の各節は明りょうでなく、前胸側面を通り折り曲げた前・中あしの背面よりさやばねの上面を湾曲して上り tempora に達する。上しんはほぼ長方形を呈し、下しんと小あごはやや先の細まった円筒形を呈し明りょうである。

前胸背板は長方形を呈するが、前縁および側縁は丸味を帯びる。全体に毛が散生し、1か所より長毛と刺毛が併生する。中胸背板はほぼ合形を呈し、その表面に複雑な隆起とへこみがある。後胸背板は変形な台形状を呈し、その前縁は中央に向っての内方に湾入する。正中溝は太くて明りょうであり、その両側は縦隆となって前縁に近づくにつれて太まる。前縁近く及び正中溝にそって刺毛が散生する。あしは前・中・後あし共たい節とけい節との境界近く短毛が疎生し、爪の部分はその先端が円形に終る。はねは無毛平滑であるが2条の浅溝が縦走する。

腹部は背面より7節が数えられ、第4節が最も幅広く、尾節に近づくにしたがって長さが増す。尾節を除いて各節とも正中部は暗透明となり、後縁に沿って隆起が走り、その上に刺毛が粗生する。尾節は細長く、尾端は複雑な隆起とへこみがある。背面及び先端に長毛と刺毛があるが、おうおう1か所より併生し、特に尾端のものは突起の先端が刺毛状に変じ、同所より長毛が生じている。

体長 11 mm, 体幅 2.5 mm。

採集地 東京都八丈島三根水源林。採集日 1952年4月(幼虫)。食樹 スダジイ (*Castanopsis cuspidata* Schottky var. *sieboldi* Nakai)。採集者 岡本光雄。

*Oberea japonica* (Thunberg) リンゴカミキリ

体はいちじるしく細長く円筒形で黄白色。第4腹節までは幅が同じ。触角間は広く、頭頂はあまりくぼまない。顔面は小さくほぼ三角形で複眼は大きい。頭頂の左右に短毛が2本ある。顔面には毛が少なく、複眼の外側に各2本の短毛があり、上しん基部に6本の短毛が横に並ぶ。上しんは平滑。大あごに毛がない。触角は体側にそって下降し、中あしのやや下方で曲って腹面にあらわれ、腹面を平行にのび、先端は大あごに達する。触角先端は曲らない。

前胸は円筒形で背面中央が軽く膨出する。前胸背は前方より約 $\frac{1}{4}$ のところにやや長い毛が4本横に並ぶ。背面の中央に短毛が横に1列、並ぶが、正中部では2列となる。後縁は短毛が不規則にきわめてわずか疎生する。中胸小たて板の中央部に短毛が疎生し、後胸背は平滑。あしは短く、後あしのたい・けい節はさやばねの下にかくれる。

第1～7腹節背はだ円形に軽く膨出し、正中線の左右に、3個の小さいとげ状突起が3角形に並び、側部にそれぞれ2個のとげ状突起がある。第8腹節背のほぼ中央に小さいとげ状突起が4個、横に並ぶ。第9腹節背は小さいとげ状突起が4個と長毛があり、腹面の両側側に3個のとげ状突起を持つ。腹面は平滑。第1～7腹節のろく膜のほぼ中央に1個の小さいとげ状突起がある。

体長 約20 mm, 前胸背幅 約3.7 mm。

この記載に使用した標本は1961年5月17日、松山でソメイヨシノ (*Prunus yedoensis* Matsumura) から採集した。

*Oberea griseopennis* Schwarzer クスノハイイロリンゴカミキリ

前種に酷似し、ほとんど区別できない。つぎの点が前種と相違するが、標本数が少ないので、前種との区別点として妥当かどうか不明である。

1. 第1～7腹節の側部のとげ状突起は1個である。
2. 第9腹節背の毛が短い。
3. ろく膜上のとげ状突起は微小で欠く節もある。
4. 頭頂の左右の短毛は1本。

体長 約16 mm, 前胸背幅 約2.8 mm。

この記載に使用した標本は国吉清保氏が1964年3月6日、沖縄石川市山城でタブノキ (*Machilus thunbergi* Sieb. et Zucc.) から採集した。

*Nipponostenostola pterocaryai* (Hayashi) コジマベニスジカミキリ

体は前種に似て細長い円筒形。しかし、前種と異なり、前方より約 $\frac{1}{2}$ の部分が最も幅が広い。顔面はほぼ三角形で複眼は小さい。頭頂はほぼ平坦で、その左右に長毛がそれぞれ2本ある。顔面は毛が多く、複眼の外側に縦に4本、その上に八字状に各3本の毛が並ぶ。

上しん基部の左右に各2本、上しん中央側部に各2本の長毛がある。大あごに長剛毛が2本ある。触角は体側にそって下降し、さやばねの先端近くで曲って腹面にあらわれ、腹面を平行にのび、先端は前胸腹面に達する。

前胸背前縁には1列に8本の長毛が並ぶ。後縁のほぼ中央から側部中央へかけて逆八字状に長毛が疎生する。中胸小たて板には逆八字状に長毛が疎生し、後胸背は短毛が逆八字状に疎生する。胸背にとげ状突起はない。あしは太く、後あしたい節はほぼ棍棒状にふくらむ。

腹部第1～2節背後縁にきわめて小さいとげ状突起と短毛が1列に並び、第3～7腹節背には円

すい形のとげ状突起が1列に並ぶ。腹面、ろく膜は毛がなく平滑。尾節は標本が破損しているために不明。

体長 約12 mm, 前胸背幅 約2.4 mm。

この記載に使用した標本は中山紘一氏が1970年6月26日、高知県鳥形山でサルグワミ (*Pterocarya rhoifolia* Sieb. et Zucc.) から採集した。

*Epiglenea comes* Bates ヨツキボシカミキリ

中村慎吾・藤村俊彦 (1958) 比和科学博物館研究報告 (1)

体は円筒形で乳白色。顔面はほぼ三角形で頭頂はやや平坦。頭頂の左右に各2本の長毛がある。複眼の外側、縦に3本の剛毛が並ぶ。上しん基部の左右に2~3本の剛毛があり、上しんは平滑。大あごに毛はない。触角は中あしのやや下方で曲って腹面にあらわれ、腹面を平行にのび、先端は腹眼の下方に達する。

前胸は後縁近くがくびれ、側部は軽く膨出する。前胸背の前縁は正中部を残し左右に、各4個の針状突起と短毛が並ぶ。ほぼ中央に1対のやや大きい針状突起と毛があり、その後方に4~5本の針状突起と短毛が疎生する。

中胸小たて板と後胸背にはそれぞれ、逆八字状に小さい針状突起が並ぶ。

腹部第1~6節背の後縁には、ほぼ1列に小さい針状突起が5~6個並び、第7腹節背はほぼ中央に半円状に6個の針状突起が並ぶ。針状突起は第1~5腹節では下向きで小さく、第6~7腹節のものは上向きで大きい。第8腹節側部中央にやや大きいとげ状突起が1対あり、背面に小さい5個のとげ状突起が並ぶ。第9腹背には2個のとげ状突起と長毛があり、腹面の左右には5個の小さいとげ状突起がある。腹面とろく膜は平滑。

体長 約12 mm, 前胸背幅 約2.5 mm。

この記載に使用した標本は1955年11月、広島県高野でスルデ (*Rhus javanica* L.) の枯木から採集した。

*Phytoecia rufiventris* Gautier et Cottes キクスイカミキリ

中村慎吾 (1960) 比和科学博物館研究報告 (3)

体は円筒形で細長く、頭部よりさやばね先近くまでは幅が等しい。顔面は大きくほぼ卵形で頭頂はやや平坦。頭頂の左右に1本の短毛がある。顔面には毛が少なく、中央の側部近くに、3本の短毛が「」状に並ぶ。上しん基部に1本の短剛毛があり、上しんは平滑。大あごに短剛毛が2本ある。触角は中あしのやや下方で曲って腹面にあらわれ、腹面を平行にのびた後、先端はほおに達する。

前胸の前縁と後縁近くは強くくびれ、側部中央は膨出する。前胸背の前縁は軽く前方へ突出し、前縁のやや後方、正中部を残して左右に各4本のやや長い毛がある。背面中央には約12本の短毛が不規則に疎生する。中胸小たて板、後胸背は毛を欠き平滑。

腹部第1~7節背の後縁は正中部を残して膨出し、その上に3個の小さいとげ状突起が三角形に並び、側部近くに2個ずつとげ状突起が斜めに並ぶ。第8腹節背は中央に10個のとげ状突起と毛が並ぶ。第9腹節端の背面に6個のとげ状突起があり、それらは3個ずつかたまると、正中部へ向って曲る。第9腹節腹面の左右に3個のとげ状突起とやや長い毛がある。

第5~7腹節のろく膜上に小さいとげ状突起が1個と短毛がある。腹面は平滑。

体長 約8 mm, 前胸背幅 約1.8 mm。

この記載に使用した標本は1959年9月18日、広島県高野でオオアワダチソウ (*Solidago serotina* Ait.) から採集した。

*Bacchisa fortunei* (Thomson) ルリカミキリ

中村慎吾 (1956) ニュー・エントモロジスト 5 (4)

体はやや扁平で紡錘形。前方より約 $\frac{1}{2}$ のところが最も幅が広い。体色は黄色。顔面はほぼ三角形で、触角間は幅広く、頭頂は浅くくぼむ。頭頂には毛がない。顔面の中央に縦2列、3本の短毛が並ぶ。上しん基部に6本の短毛があり、上しん中央の側部に各2本の短剛毛がある。大あごに短剛毛が2本ある。触角は体側にそって下降し、中あしのやや下方で曲って腹面にあらわれ、さやばねで軽く環状になり、先端は中あしけい節のほぼ中央に達する。

前胸はほぼ円筒形で幅が広く、前胸背前縁に4本の短毛と背面中央に不規則に疎生する短毛がある。中胸小たて板、後胸背は平滑。あしは短く、平滑。後あしのたい・けい節はさやばねの下にかくれ、ふ節端はさやばねの先端を越えない。

腹部第1～6節後縁に短剛毛が疎生する。第7腹節背では半円形に短剛毛が疎生し、第8腹節背中央に4本の剛毛が並ぶ。第9腹節背に2本の短毛があり、腹面の左右にも2本の短毛がある。第2～6腹節のろく膜に2本の短毛があり、腹面は平滑。

体長 約11 mm, 前胸背幅 約2.7 mm。

この記載に使用した標本は1953年4月17日、広島県比和でウシコロシ (*Pourthianea villosa* Decne.) の生木から採集した。

## 補 遺

第1部を發表後、ハナカミキリ亜科に属するケプトハナカミキリとカミキリ亜科に属するオガサワライカリモントラカミキリのさなぎを得たので、記載する。

## ハナカミキリ亜科さなぎの種の検索

- 1.\* 顔面にかっ色の太い剛毛を持ち、第9腹節端に1本の尾端針状突起を持つ……………ハイイロハナカミキリ  
 — 顔面の剛毛はこまかく短い。第9腹節端に円錐形の2本の尾刺がある。……………2  
 — 顔面の剛毛はこまかく短い。第9腹節端背面の中央は前方に湾入し、両側は軽く突出するが、尾刺は微小で不明りょう。……………ケプトハナカミキリ

*Caraphia lepturoides* (Matsushita) ケプトハナカミキリ

体はやや扁平で紡錘形、乳白色を呈する。頭部は強く腹面に向って曲り、背面から全くみえない。顔面はほぼ卵形で長い。顔面のほぼ中央、正中部を残してその左右に短剛毛が各5～6本疎生する。上しんは平滑で剛毛を欠き、上しん基部近くの左右に2本の短剛毛がある。後頭部の左右に3本の短剛毛がある。触角第1節は長く、弓状で強く側部につき出し、第2・3節は第1節にほぼ直角につく。触角は体側にそって下降した後、さやばねの先端近くで、曲って腹面にあらわれ、腹面を大きく弧状にのび、先端は第2節の近くに達する。

前胸背は台形で、幅より長さが大。前縁に2個の突起がある。前胸背前縁近くと中央部後縁近くにそれぞれ、短剛毛が横に1列、疎生する。中胸小たて板は平滑。後胸背は後方に逆八字状に短剛毛が疎生する。あしは短く、後あしのたい・けい節の大部分はさやばねの下にかくれる。各たい節端に短剛毛がある。

腹部第1～5節背は後縁が軽く膨出し、その部分に正中部を残して、左右にそれぞれ5～6個の

\* 第1部 89ページの番号と同じ。

とげ状突起が円弧状に並ぶ。第6腹節背は1列に5個のとげ状突起が左右に並び、第7腹節背は3個のとげ状突起が左右にあり、側部近くに1対のとげ状突起がある。第8腹節背は不規則にとげ状突起が疎生する。第9腹節端の背面は前方に向って湾入し、両側は軽く突出する。尾刺は微小で不明りょう。尾刺の外側に小さいとげ状突起が1個あり、2~3本の短毛が疎生する。ろく膜に1~2本の短毛があり、腹面の両側に1~2本の短毛がある。

体長 約14 mm, 前胸背幅 約2.8 mm。

この記載に使用した標本は1970年5月27日、神奈川県堂が島で衣笠恵士氏がクサギ (*Clerodendron trichotomum* Thunb.) の枯木から採集したものを使用した。

付記: 本種は既知の3種と体形、尾刺などの形態できわめて容易に区別できるが、検索には尾刺の形態だけを取り上げたのは、ハナカミキリ亜科のさなぎはこれでわずか4種が判明しているだけで、大部分が不明である。従って、将来、ハナカミキリ亜科の検索は大幅に書き改めなければならないと考えられるので、上記のような処置をとった。

#### カミキリ亜科さなぎの種の検索

14. \*\* 大あごに毛がある。……………15  
 — 大あごに毛がない。……………16
16. 前胸背の幅と長さはほぼ等しく、側部がやや突出する。……………コトラカミキリ属  
 — 前胸背は幅より長さが大。側部のふくらみはやや小。……………17
17. 後あしは長く、たい節端は第6腹節端に達する。……………トラカミキリ属  
 — 後あしは短く、たい節端は第6腹節端に達しない。第1~6腹節にとげ状突起がほぼ環状にならぶ。……………キスジトラカミキリ  
 — 後あしは短く、たい節端は第5腹節のほぼ中央に達する。腹節背のとげ状突起は小さく、第2・3腹節はほぼ1列、第4~6腹節はほぼ環状になる。……………オガサワライカリモントラカミキリ

#### *Xylotrechus ogasawarensis* Matsushita オガサワライカリモントラカミキリ

本種はキスジトラカミキリのさなぎに酷似し、既知のトラカミキリ属 *Xylotrechus* とは、後あしが短い点で異なる。

後あしの短い点、概形などキスジトラカミキリに酷似するが、つぎの点でかろうじて区別できる。

1. 第1腹節背のとげ状突起を欠き、第2・3腹節背はほぼ1列、第4~6腹節ではほぼ環状に並び、とげ状突起は小さい。(キスジトラカミキリでは第1~6腹節にほぼ環状にならぶ。)
2. 第8腹節背面の後縁に2個のやや大きいとげ状突起があり、内側へ曲る。その外側に各1個のとげ状突起があるが、欠く場合もある。(キスジトラカミキリでは4個の細長いとげ状突起が並ぶ。)
3. 触角第1節が長く、側部へ強くつき出す。

既知のトラカミキリ属とはつぎの点で区別が、かろうじてできる。なおトラカミキリ属の中ではウスイロトラカミキリに最も似ている。

1. 後あしが短かく、たい節端は第5腹節の中央に達する。
2. 触角第1節端の鈍突起は不明りょう。

\*\* この番号は第1部 93ページに同じ。

体長 約 18 mm, 前胸背幅 約 4.2 mm。

この記載に使用した標本は 1970 年 4 月 1 日, 小笠原諸島母島で, ハチジョウグワ (*Morus kagayamae* Koidz.) の枯木から採集した。

*Ceresium sinicum* White テツイロヒメカミキリ

標本がなかったため第 1 部では, 小島俊文 (1931) の記載を引用しておいたが, 標本が入手できなかったので図だけを付記する。

図示に使用した標本は遠田暢男氏が 1970 年 6 月 22 日, 東京目黒で クスノキ (*Cinnamomum camphora* Sieb.) から採集したものである。

## 要 約

本邦において, 既知の 45 種のカミキリムシのさなぎに, 新たに 50 種を加え, 95 種のさなぎの形態について比較研究を行なった。

その結果, カミキリムシ科 (Cerambycidae) は さなぎの形態により, ノコギリカミキリ亜科 (Prioninae), ホソカミキリ亜科 (Disteniinae), ハナカミキリ亜科 (Lepturinae), マルクピカミキリ亜科 (Aseminae), カミキリ亜科 (Cerambycinae) とフトカミキリ亜科 (Lamiinae) の 6 亜科に分類できる。

成虫ではクロカミキリ *Spondylis buprestoides* (Linné) をマルクピカミキリ亜科より分離して, クロカミキリ亜科 (Spondylinae) にふくめているが, さなぎでは明りょうな差異はなく, クロカミキリはマルクピカミキリ亜科にふくめておいた。

さなぎの体表にある剛毛や各種の突起は大きな単位の分類上, 指標となるが, 剛毛の数, 配列, 各種のとげ状突起の数などは変異があり, 種を分類する形質として必しも有効でない。従って, 近縁種間の区別は困難である。

## 参 考 文 献

- Craighead, F. C. (1923) North American Cerambycid larvae, Bull. Dept. Agric. Canada, 27.  
 Duffy, E. A. J. (1953) A monograph of the immature stages of British and imported timber beetles (Cerambycidae), British Museum (Nat. hist.)  
 ————— (1957) A monograph of the immature stages of African timber beetles (Cerambycidae), British Museum (Nat. hist.)  
 ————— (1960) A monograph of the immature stages of Neotropical timber beetles (Cerambycidae), British Museum (Nat. hist.)  
 ————— (1963) A monograph of the immature stages of Australian timber beetles (Cerambycidae), British Museum (Nat. hist.)  
 ————— (1968) A monograph of the immature stages of Oriental timber beetles (Cerambycidae), British Museum (Nat. hist.)  
 藤村俊彦 (1955) 日本産天牛幼虫及び蛹の研究 (1), 昆虫学評論 6 (8・9)  
 ————— (1956) 日本産天牛幼虫及び蛹の研究 (2) イタヤカミキリの幼虫と蛹, あきつ 5 (2)  
 ————— (1957) 本邦産カツコウメダカカミキリについて, げんせい 6 (1・2)  
 ————— (1958) 日本産天牛幼虫及び蛹の研究 (3) ブドウトラカミキリの幼虫と蛹, あきつ 7 (3)  
 藤村俊彦・門脇久志 (1969) スネケブカヒロコバネカミキリの幼虫とさなぎ (日本産天牛幼虫及び蛹の研究 6), げんせい (19)  
 川村 満・小島圭三 (1965) チャボヒゲナガカミキリについて, げんせい (15)  
 神谷一男 (1933) ベニカミキリの幼虫及び蛹に就いて, 応用動物学雑誌 5 (2)  
 小島圭三・渡辺弘之・園吉清保 (1964) 琉球におけるサビアヤカミキリについて, 日本応用動物昆虫学会誌 8 (1)

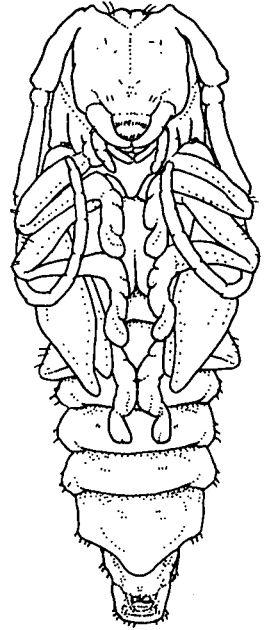
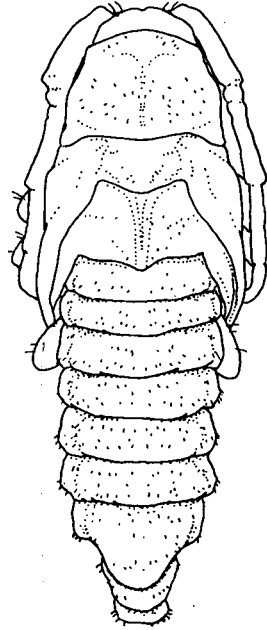
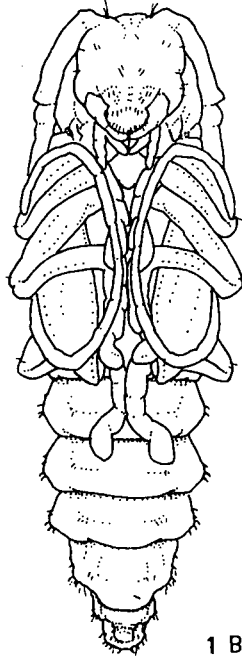
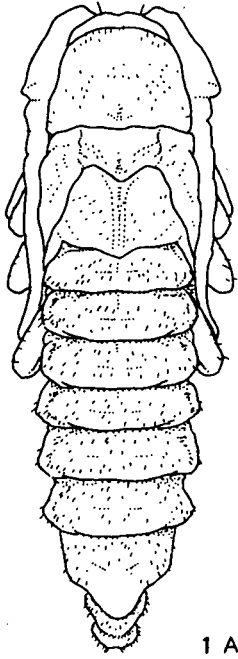
- Kojima, T. (1929) Immature stages of some Japanese Cerambycid beetles, with notes on their habits, Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ. 10 (2)
- (1931) Further investigation on the immature stages of some Japanese Cerambycid beetles, with notes on their habits, Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ. 11 (3)
- 黒田祐一 (1950) タカサゴシロカミキリの幼虫, 蛹及び習性に就いて, 昆虫学評論 5 (1)
- 松下真幸 (1936) ハイイロヤハズカミキリの幼虫, 蛹に就て, 昆虫界 8 (77)
- 皆川正実 (1938) スギカミキリ及びヒメスギカミキリの幼虫の形態並に生態について, 応用動物学雑誌 10 (2)
- 中島 茂・清水 薫 (1951) 地下電話 Cable に障害を与えるムネマルクロカミキリ *Spondylis buprestoides* Linnaeus に関する調査研究, 九州電気通信局施設部調査課
- 中村慎吾 (1955) *Chlorophorus* 属 2 種の幼虫と蛹について (カミキリムシ幼生期の形態と生態 I), ニュー・エントモロジスト 4 (1.2)
- (1955) シロオビチビカミキリとタカサゴシロカミキリの幼虫と蛹について (カミキリムシ幼生期の形態と生態 II), ニュー・エントモロジスト 4 (1.2)
- (1956) トガリシロオビサビカミキリとオジロサビカミキリについて (カミキリムシ幼生期の形態と生態 V), 生態昆虫 5 (12)
- (1956) ルリカミキリの幼虫と蛹について (カミキリムシ幼生期の形態の生態 VI), ニュー・エントモロジスト 5 (4)
- (1957) ホタルカミキリの幼虫と蛹について (カミキリムシ幼生期の形態と生態 VII), 昆虫 25 (1)
- (1958) クリの枝幹を加害するカミキリムシ, ニューエントモロジスト 7 (1)
- ・藤村俊彦 (1958) フトカミキリ亜科に属する数種の幼虫の形態と習性について, 比和科学博物館研究報告 (1)
- (1959) カミキリムシ幼生期の形態と生態 (X), 比和科学博物館研究報告 (2)
- (1960) カミキリムシ幼生期の形態と生態 (XI), 比和科学博物館研究報告 (3)
- 下山健作 (1957) アカネカミキリの生活史, 昆虫学評論 8 (1.)
- (1958) シロオビカミキリの生活史, 昆虫学評論 9 (1)
- (1962) エゾナガヒゲカミキリの生活史, 昆虫学評論 14 (1)
- 玉貫光一 (1939) 日本動物分類 第10巻第8篇, 15, 天牛科1, 東京三省堂
- 梅谷献二・藤村俊彦 (1954) 伊豆七島産リュウキュウリボンシカミキリについて, 昆虫 22 (1.2)

(昭和45年 9 月 26 日受理)

第 1 図 版

- 1 A ナガゴマフカミキリ, 背面 *Mesoas longipennis* Bates, dorsal view
- 1 B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 1 C 同, 上しん ditto, labrum
- 2 A ゴマフカミキリ, 背面 *Mesoasa myops jaoanica* Bates, dorsal view
- 2 B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 3 A ケハラゴマフカミキリ, 背面 *Coptops hirtiventris* Gressitt, dorsal view
- 3 B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 3 C 同, 側面 ditto, side view



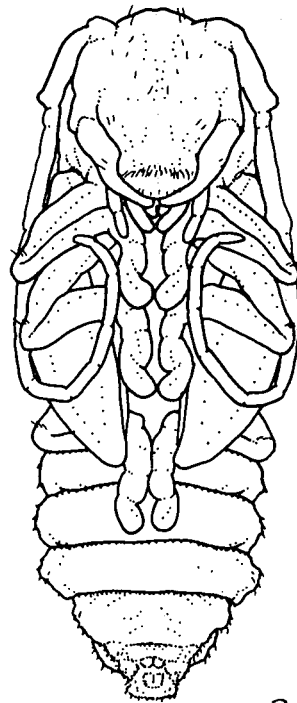
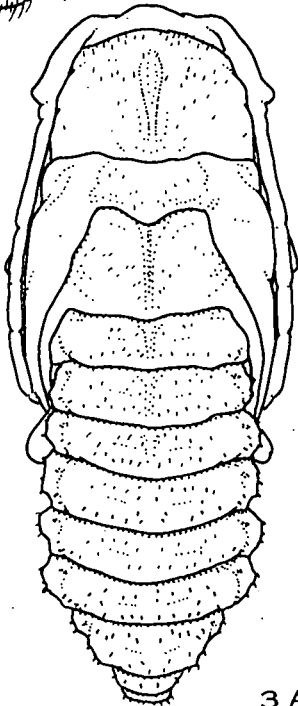


2 A

2 B



1 C



3 B

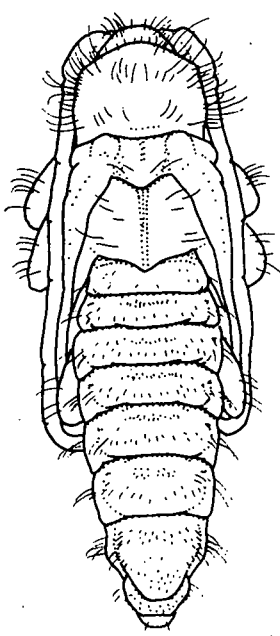


3 C

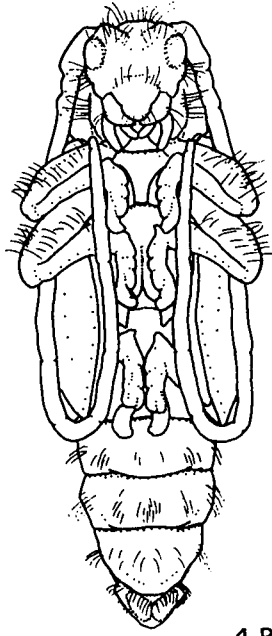
3 A

第 2 図 版

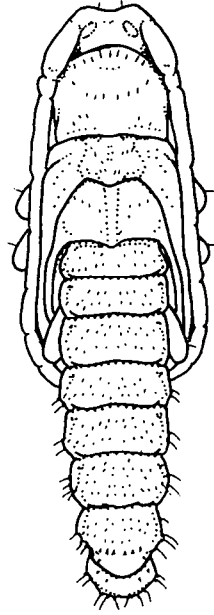
- 4 A アヤモンチビカミキリ, 背面 *Sybra ordinata* Bates, dorsal view  
4 B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 5 A フタモンチビカミキリ, 背面 *Ropica coenosa* (Matsushita), dorsal view  
5 B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 6 A タテジマカミキリ, 背面 *Aulaconotus pachypezoides* Thomson, dorsal view  
6 B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 7 A シロスジドウボンカミキリ, 背面 *Pothyne silacea* Pascoe, dorsal view  
7 B 同, 腹面 ditto, ventral view



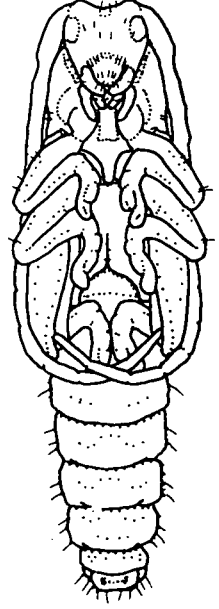
4 A



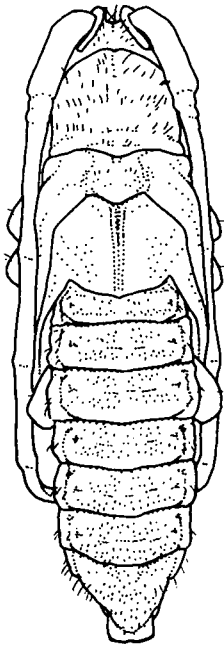
4 B



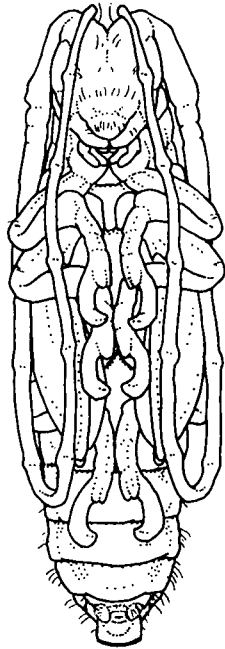
5 A



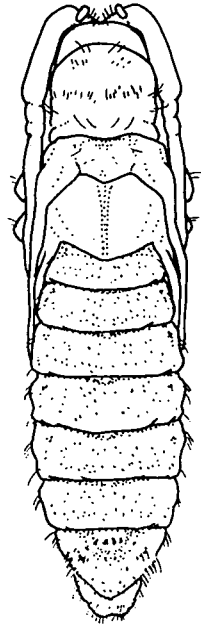
5 B



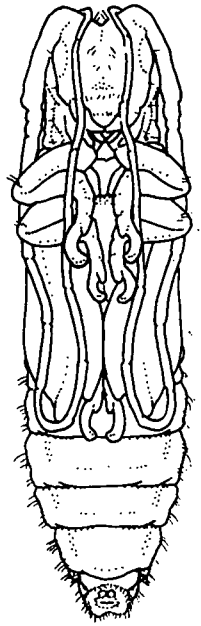
6 A



6 B



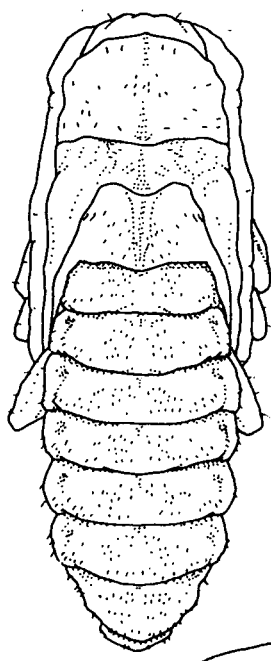
7 A



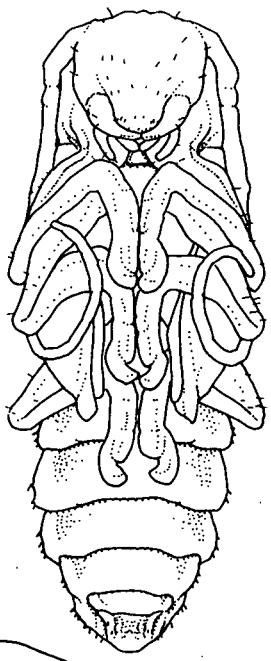
7 B

第 3 図 版

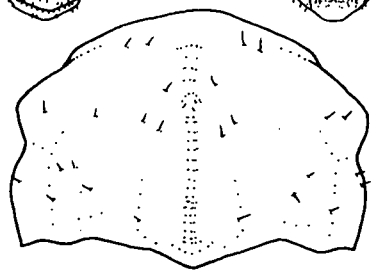
- 8 A サビアヤカミキリ, 背面 *Abryna coenosa* (Newman), dorsal view  
8 B 同, 腹面 ditto, ventral view  
8 C 同, 前胸背 ditto, pronotum
- 9 A ハイイロヤハズカミキリ, 背面 *Niphona furcata* Bates, dorsal view  
9 B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 10 A トガリシロオビサビカミキリ, 背面 *Pterolophia caudata* (Bates), dorsal view  
10 B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 11 A エゾサビカミキリ, 背面 *Pterolophia japonica* Breuning, dorsal view  
11 B 同, 腹面 ditto, ventral view



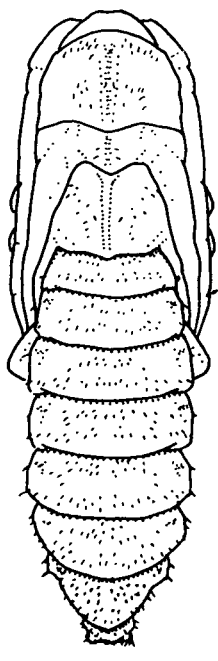
8 A



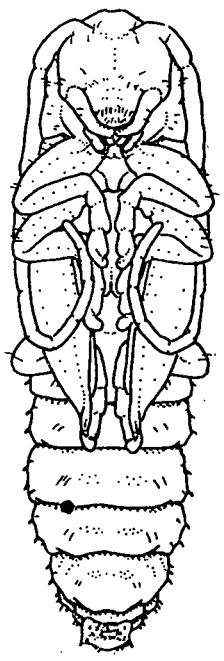
8 B



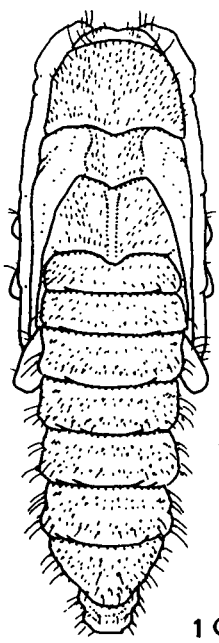
8 C



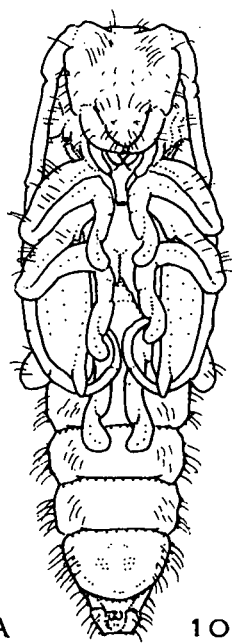
9 A



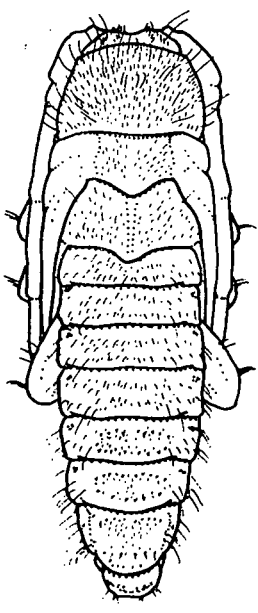
9 B



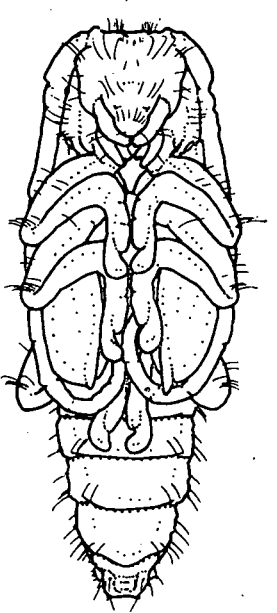
10 A



10 B



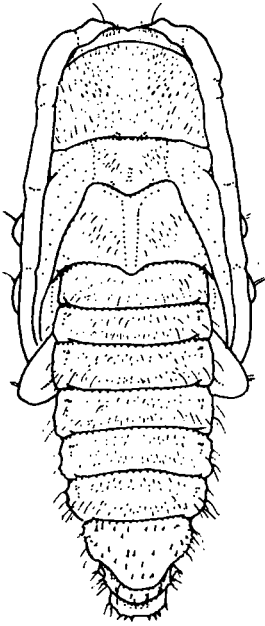
11 A



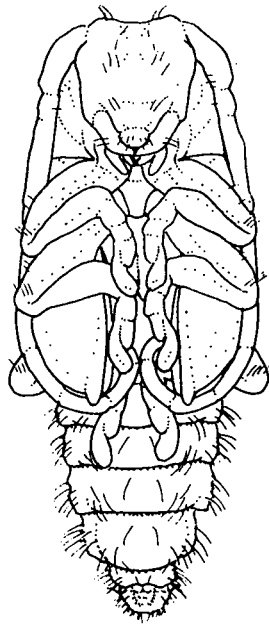
11 B

第 4 図 版

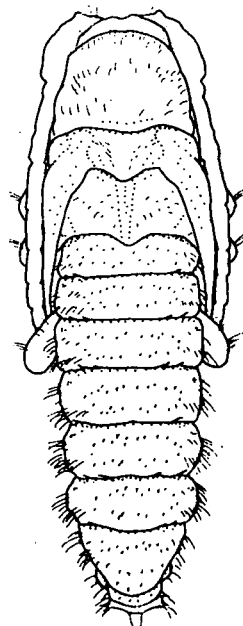
- 12A アトジロサビカミキリ, 背面 *Pterolophia zonata* (Bates), dorsal view  
12B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 13A アトモンサビカミキリ, 背面 *Pterolophia rigida* (Bates), dorsal view  
13B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 14A ワモンサビカミキリ, 背面 *Pterolophia annulata* (Chevrolat), dorsal view  
14B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 15A ナカジロサビカミキリ, 背面 *Pterolophia jugosa* (Bates), dorsal view  
15B 同, 腹面 ditto, ventral view



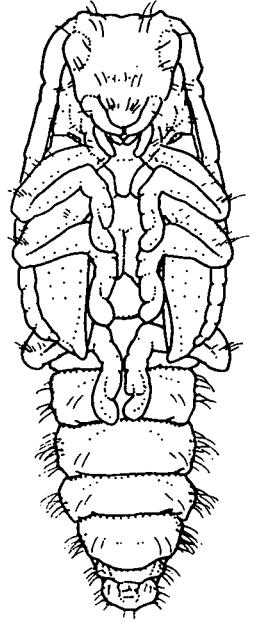
12 A



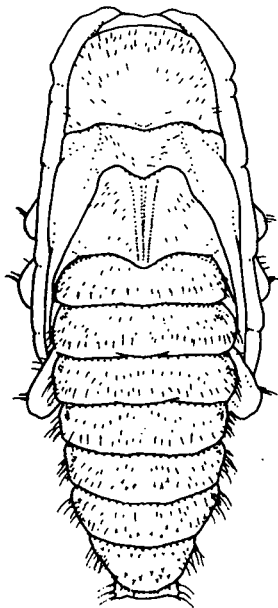
12 B



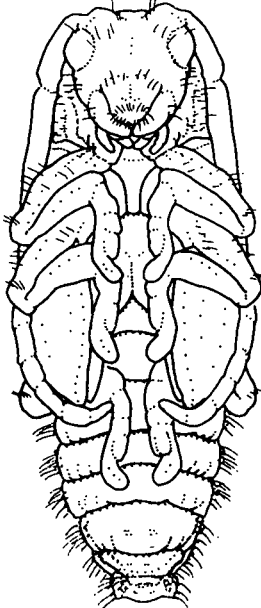
13 A



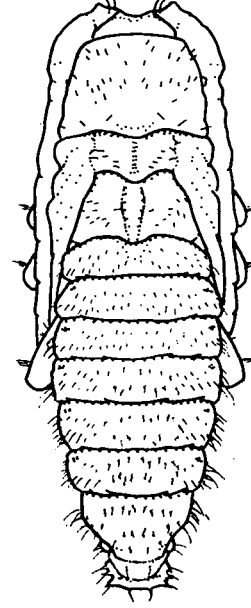
13 B



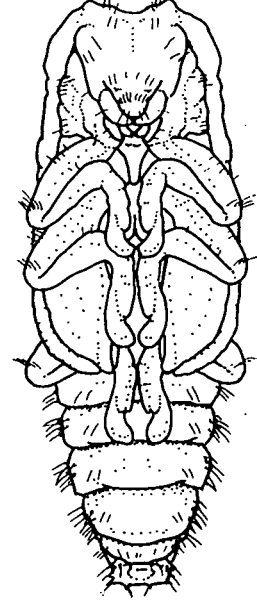
14 A



14 B



15 A

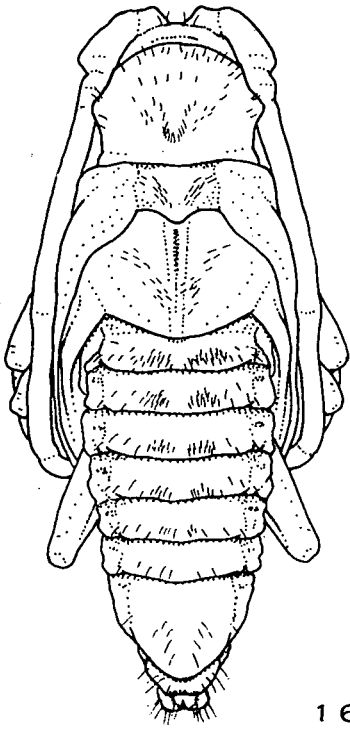


15 B

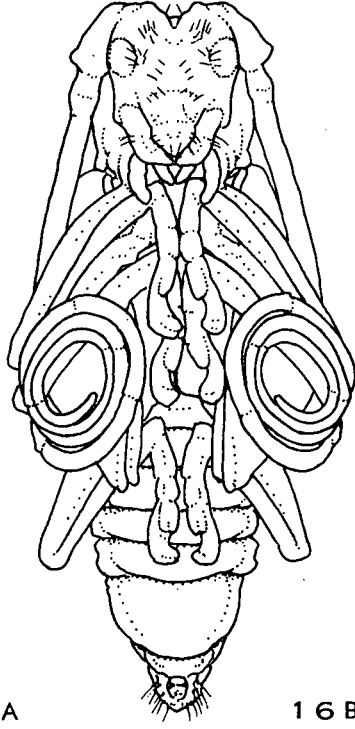
第 5 図 版

- 16A キボシカミキリ, 背面 *Psacotha hilaris* (Pascoe), dorsal view  
16B 同, 腹面 ditto, ventral view  
16C 同, 第9・10腹節, 側面 ditto, 9th and 10th abdominal segments, side view
- 17A ゴマダラカミキリ, 背面 *Anoplophora malasiaca* (Thomson), dorsal view  
17B 同, 腹面 ditto, ventral view  
17C 同, 側面 ditto, side view  
17D 同, 第10腹節, 背面 ditto, 10th abdominal segment, dorsal view

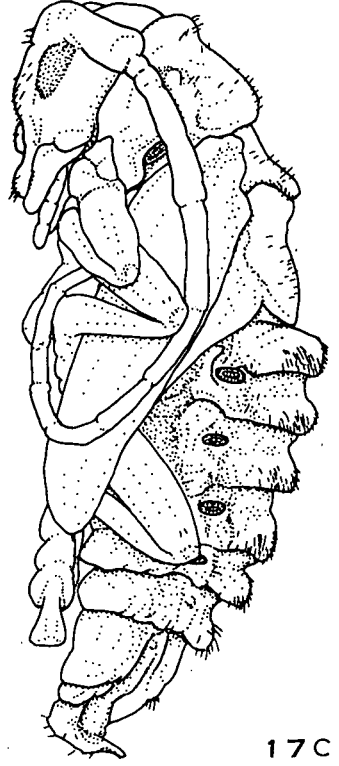




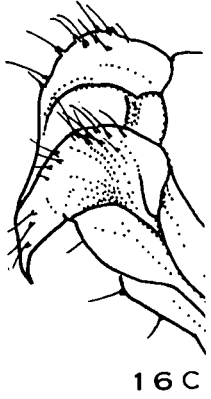
16 A



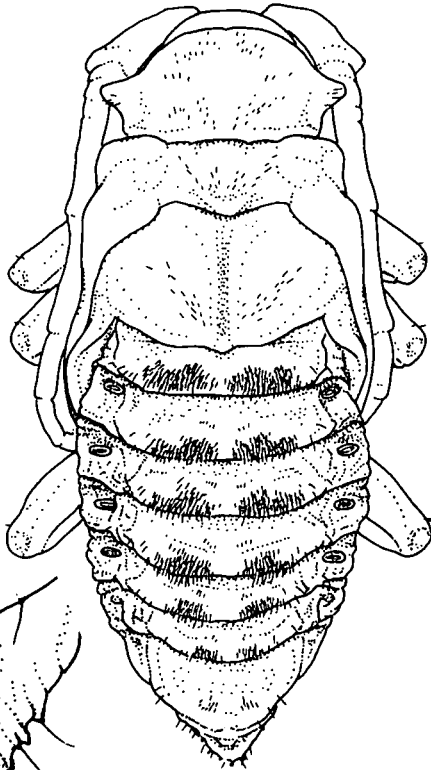
16 B



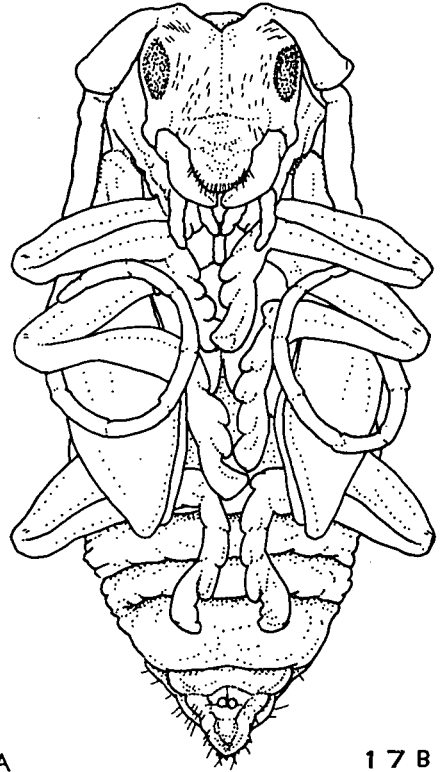
17 C



16 C

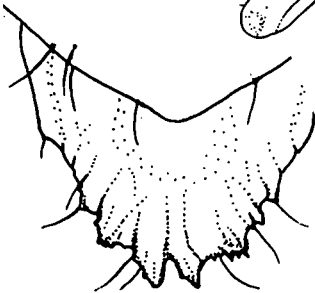


17 D



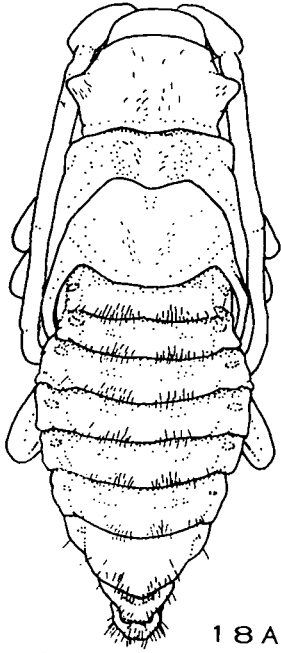
17 A

17 B

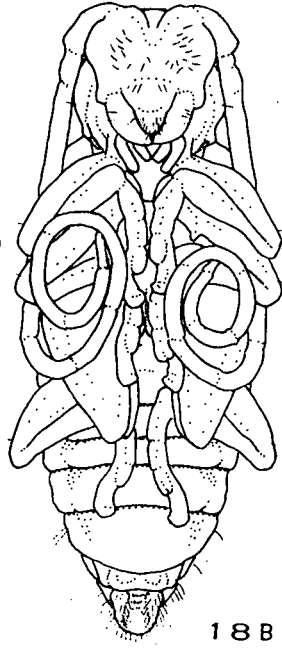


第 6 図 版

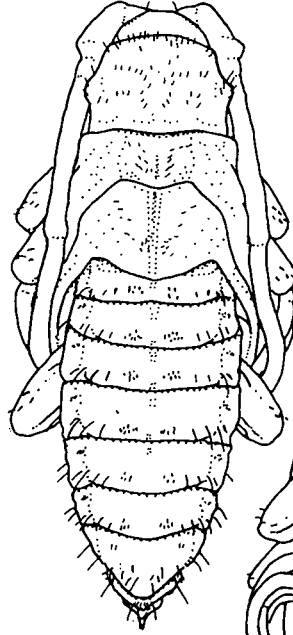
- 18A イタヤカミリ, 背面 *Mecynipus pubicornis* Bates, dorsal view  
18B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 19A チャボヒゲナガカミキリ, 背面 *Xenicotela pardalina* (Bates), dorsal view  
19B 同, 腹面 ditto, ventral view  
19C 同, 第6腹節, 背面 ditto, 6th abdominal segment, dorsal view
- 20A マツノマグラカミキリ, 背面 *Monochamus alternata* Hope, dorsal view  
20B 同, 腹面 ditto, ventral view  
20C 同, 側面 ditto, side view  
20D 同, 触角1・2・3節 ditto, 1st, 2nd and 3rd segments of antenna



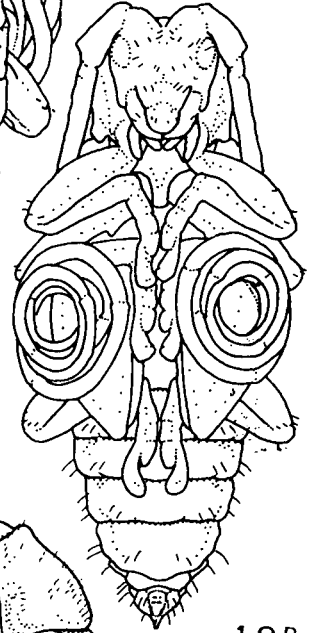
18A



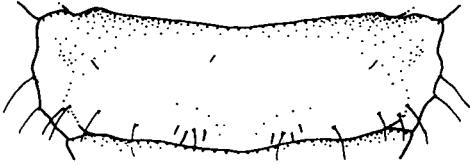
18B



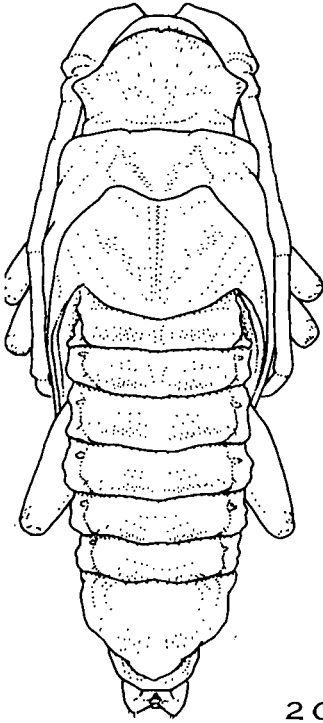
19A



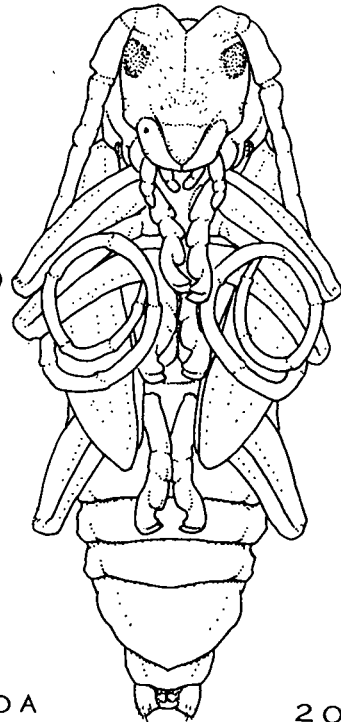
19B



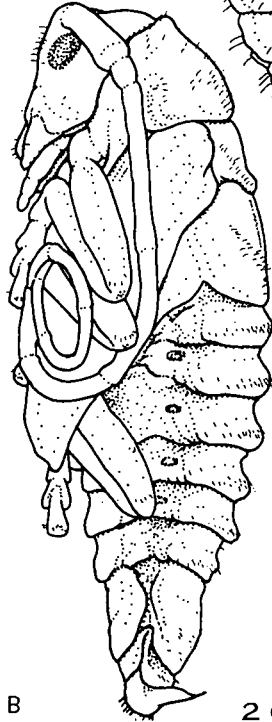
19C



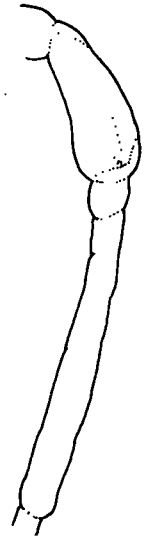
20A



20B



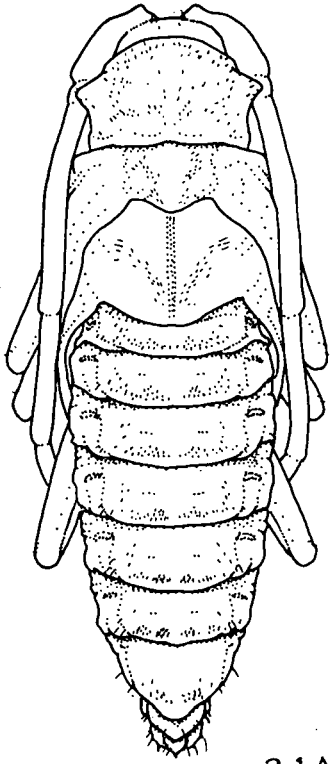
20C



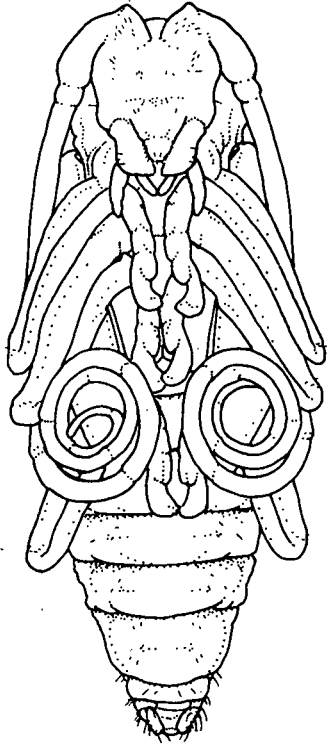
20D

第 7 図 版

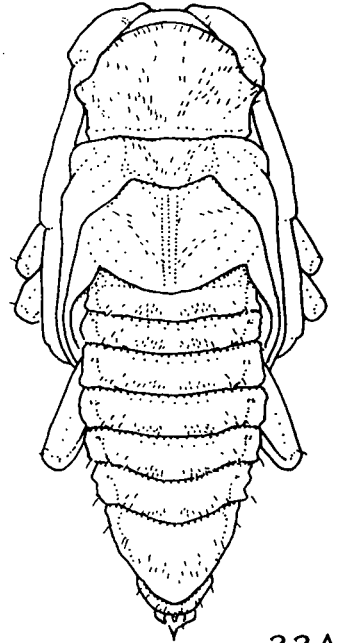
- 21A シラフヨツボシヒゲナガカミキリ, 背面 *Monochamus urssovi* (Fischer), dorsal view  
21B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 22A カラフトヒゲナガカミキリ, 背面 *Monochamus saltarius* Gebler, dorsal view  
22B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 23A ヒメヒゲナガカミキリ, 背面 *Monochamus subfasciatus* Bates, dorsal view  
23B 同, 腹面 ditto, ventral view



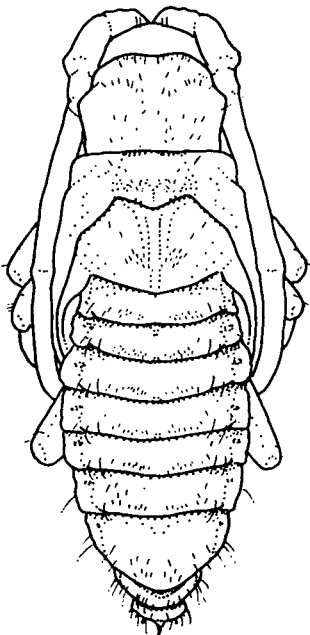
21A



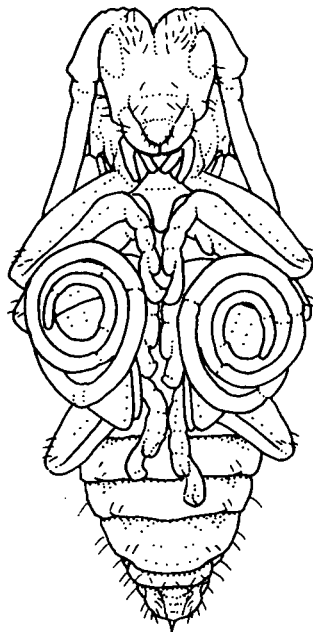
21B



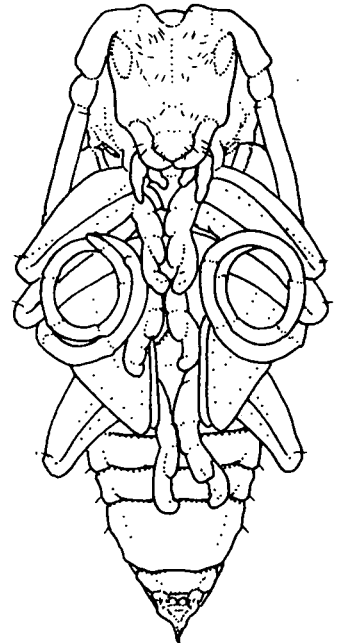
22A



23A



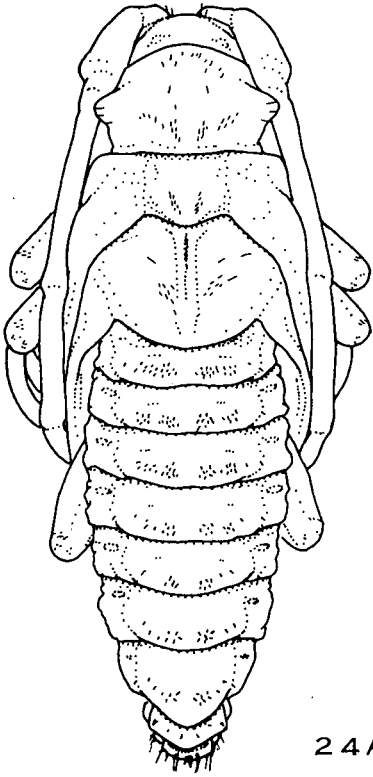
23B



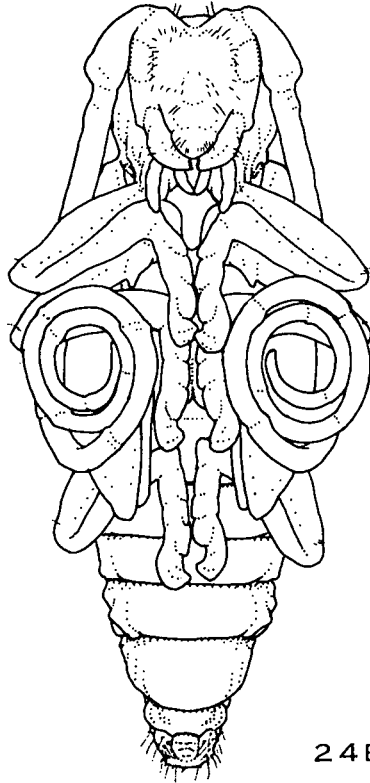
22B

第 8 図 版

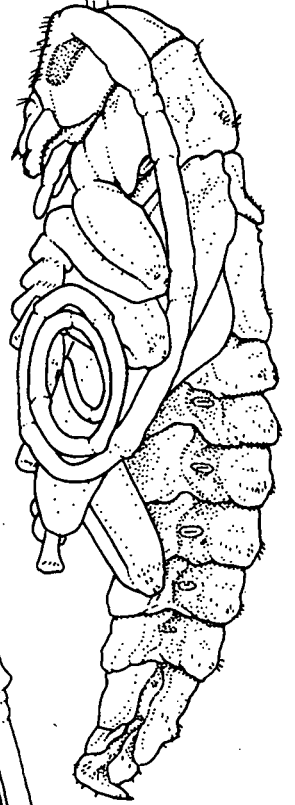
- 24A センノカミキリ, 背面 *Acalolepta luxuriosa* (Bates), dorsal view  
24B 同, 腹面 ditto, ventral view  
24C 同, 側面 ditto, side view
- 25A キンケビロウドカミキリ, 背面 *Acalolepta pernutans paucipunctatus* (Gressitt),  
dorsal view  
25B 同, 腹面 ditto, ventral view



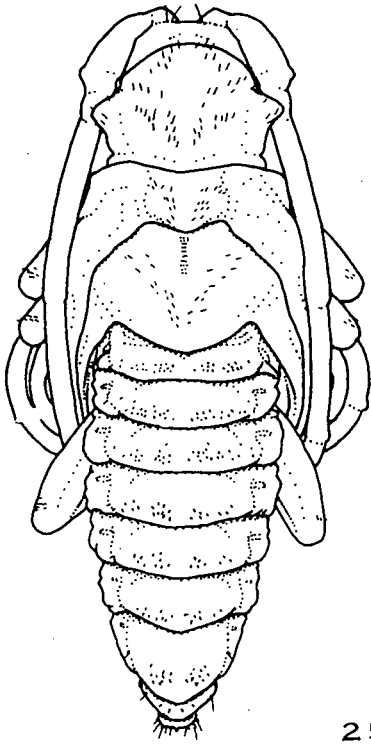
24A



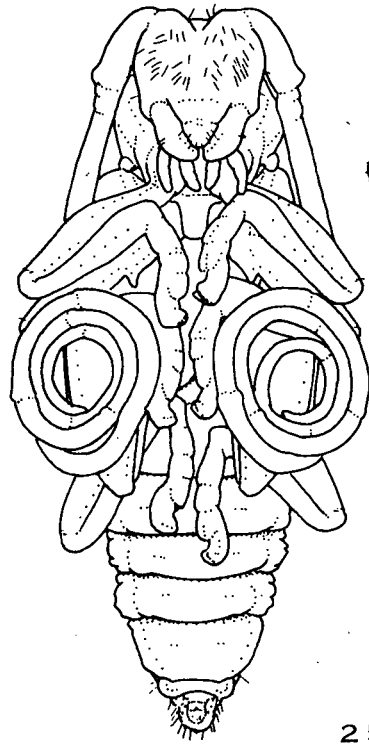
24B



24C



25A

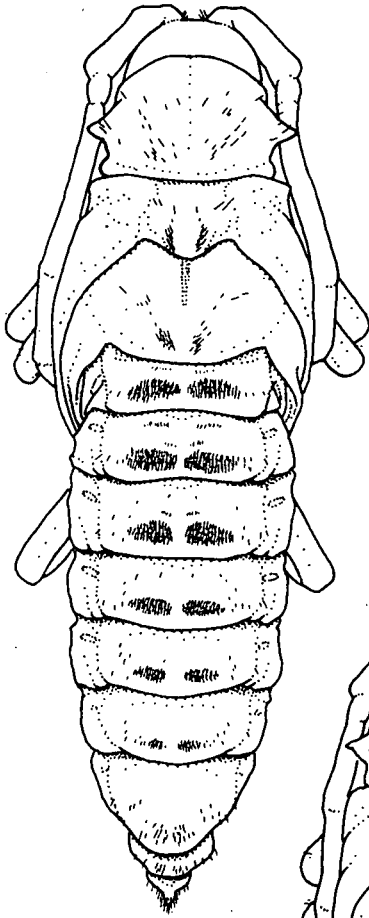


25B

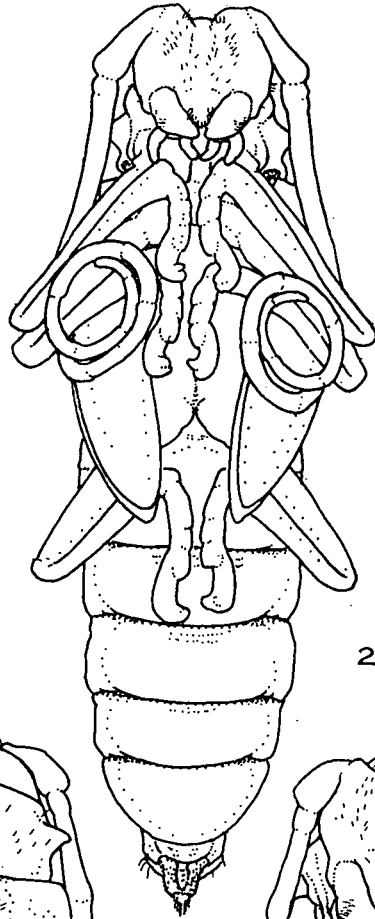
第 9 図 版

- 26A シロスジカミキリ, 背面 *Batocera lineolata* Chevrolat, dorsal view  
26B 同, 腹面 ditto, ventral view  
26C 同, 第10腹節, 背面 ditto. 10th abdominal segment, dorsal view  
27A クワカミキリ, 背面 *Apriona japonica* Thomson, dorsal view  
27B 同, 腹面 ditto, ventral view

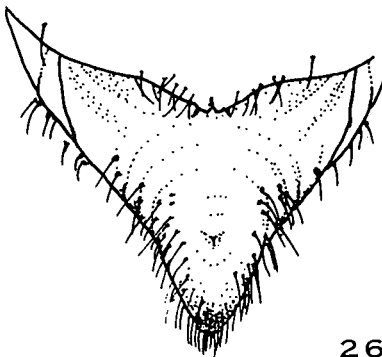




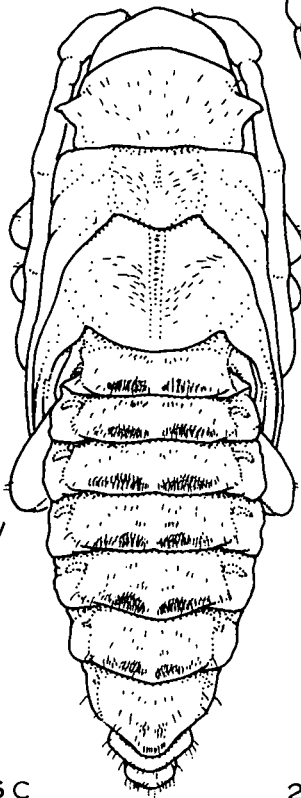
26A



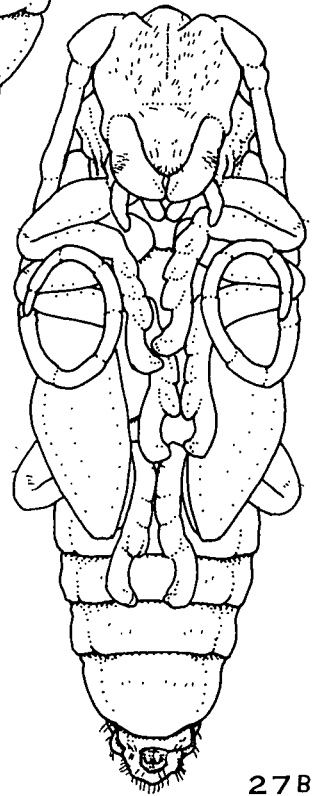
26B



26C



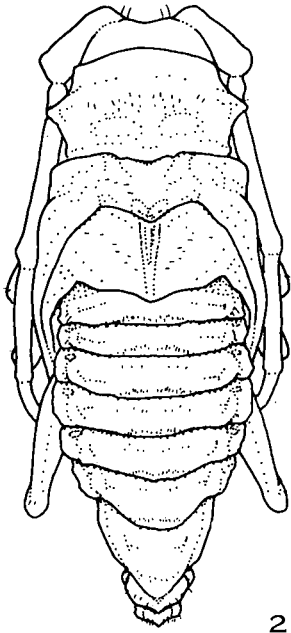
27A



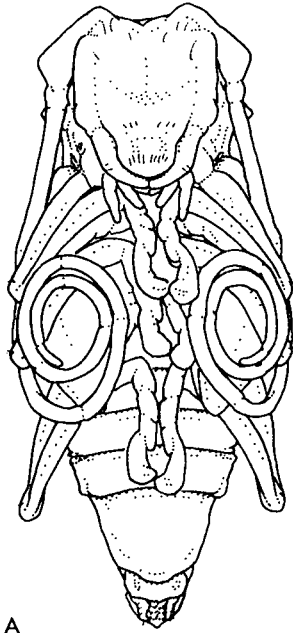
27B

第 10 図 版

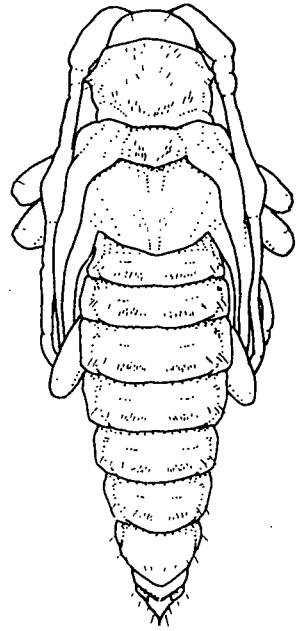
- 28A ヒゲナガゴマフカミキリ, 背面 *Palinna liturata* (Bates), dorsal view  
28B 同, 腹面 ditto, ventral view  
28C 同, 第 10 腹節, 側面 ditto, 10th abdominal segment, side view
- 29A セミスジコブヒゲカミキリ, 背面 *Rhodopina lewisii* (Bates), dorsal view  
29B 同, 腹面 ditto, ventral view  
29C 同, 触角 1・2・3 節 1st, 2nd and 3rd segments of antenna
- 30A シロオビチビカミキリ, 背面 *Sybrodiboma subfasciata* (Bates), dorsal view  
30B 同, 腹面 ditto, ventral view



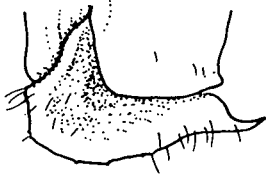
28A



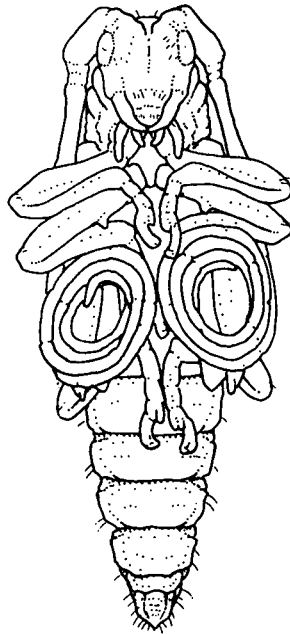
28B



29A



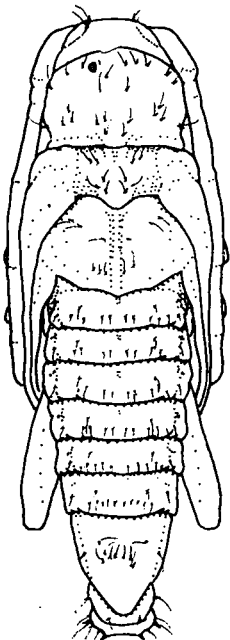
28C



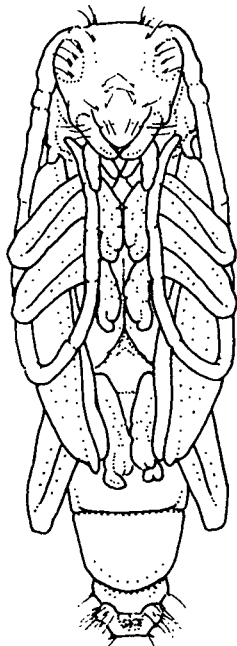
29B



29C



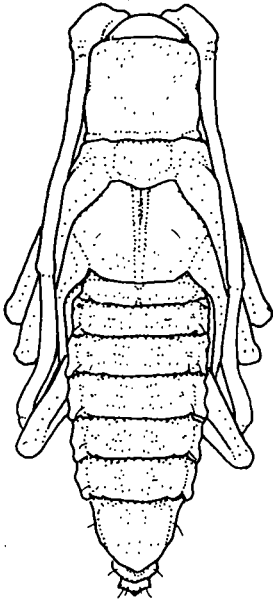
30A



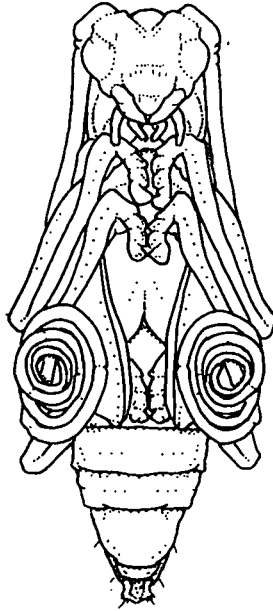
30B

第 11 図 版

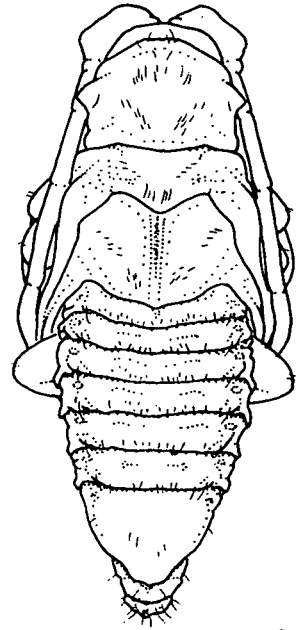
- 31A タカサゴシロカミキリ, 背面 *Olenecamptus formosanus* Pic, dorsal view  
31B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 32A エゾナガヒゲカミキリ, 背面 *Jezohammus nubilis* Matsushita, dorsal view  
32B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 33A ヒゲナガモモフトカミキリ, 背面 *Acanthocinus griseus* (Fabricius), dorsal view  
33B 同, 腹面 ditto, ventral view



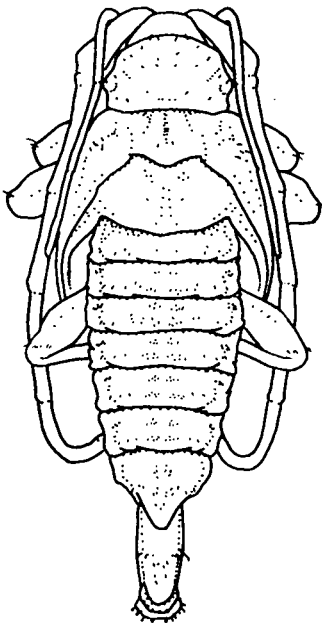
31A



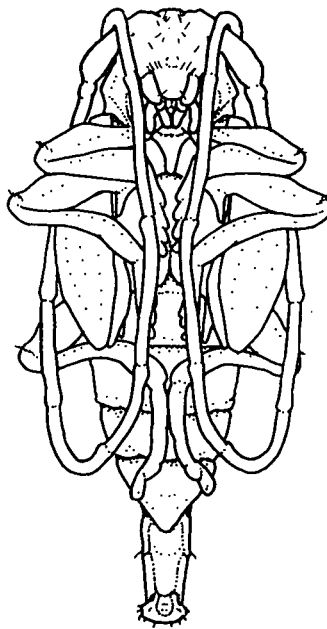
31B



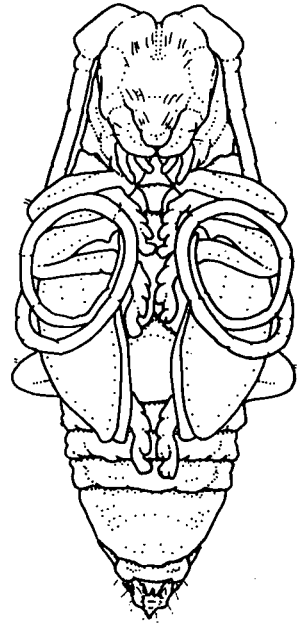
32A



33A



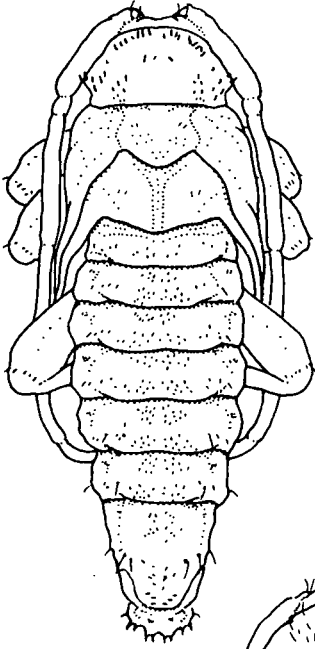
33B



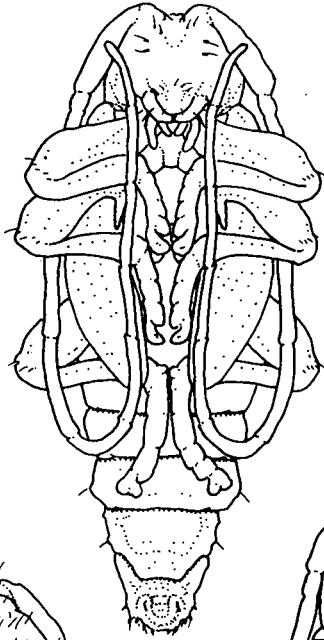
32B

第 12 図 版

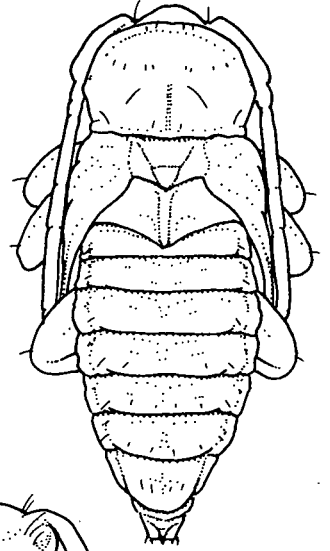
- 34A ゴマダラモモフトカミキリ, 背面 *Leiopus stillatus* (Bates), dorsal view  
34B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 35A オガサワラカミキリ, 背面 *Boninella degenerata* Gressitt, dorsal view  
35B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 36A フタツメケシカミキリ, 背面 *Miaenia bioculata* (Matsumura et Matsushita),  
dorsal view  
36B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 37A アトモンマルケシカミキリ, 背面 *Excentrus lineatus* Bates, dorsal view  
37B 同, 腹面 ditto, ventral view



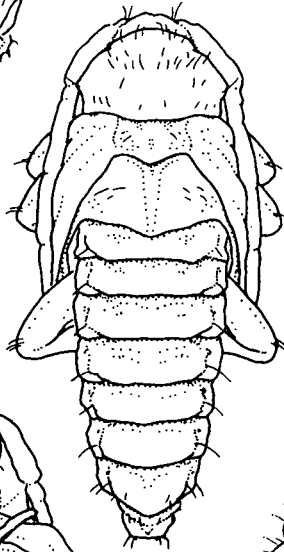
34A



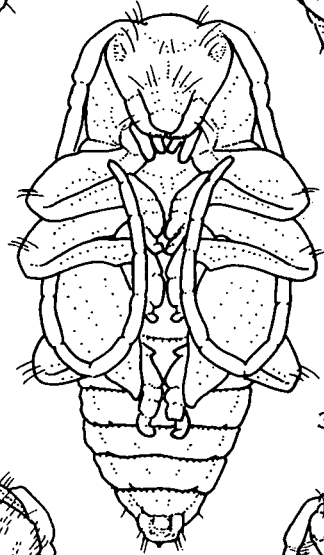
34B



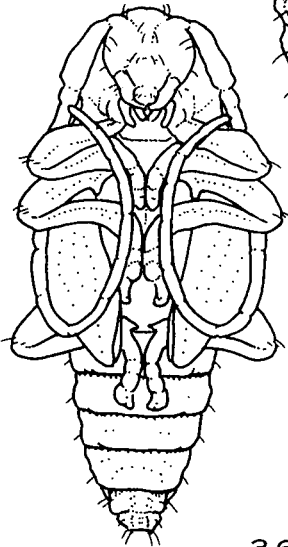
35A



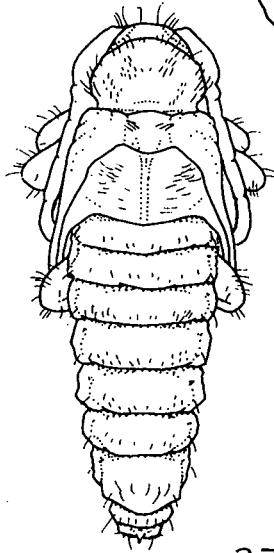
36A



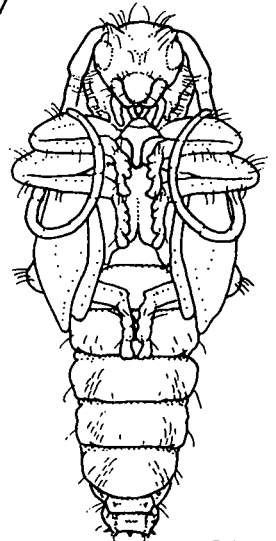
35B



36B



37A

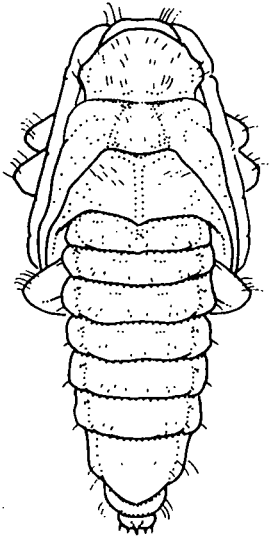


37B

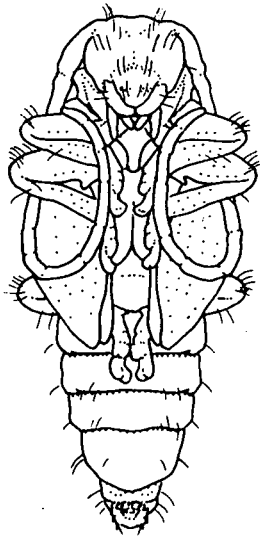
第 13 図 版

- 38A シラオビゴマフケシカミキリ, 背面 *Excentrus guttulatus* Bates, dorsal view  
38B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 39A ハンノキカミキリ, 背面 *Cagosima sanguinolenta* Thomson, dorsal view  
39B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 40A キモンカミキリ, 背面 *Menesia sulphurata* (Gebler), dorsal view  
40B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 41A ジュウニキボシカミキリ, 背面 *Paramenesia theaphia* (Bates), dorsal view  
41B 同, 腹面 ditto, ventral view

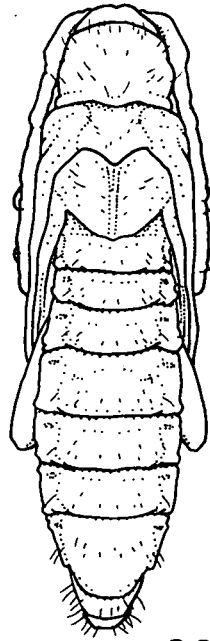




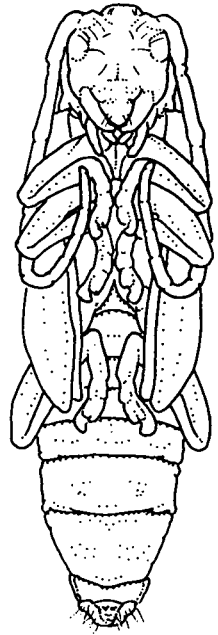
38A



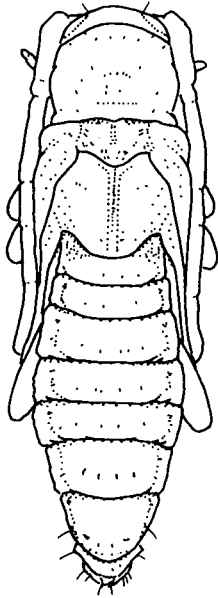
38B



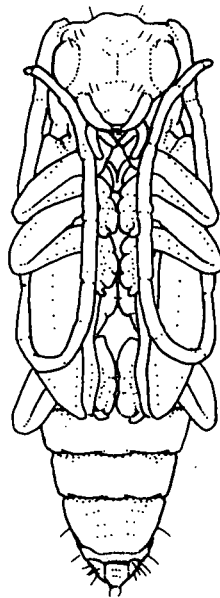
39A



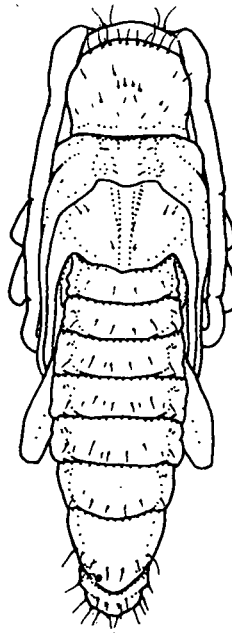
39B



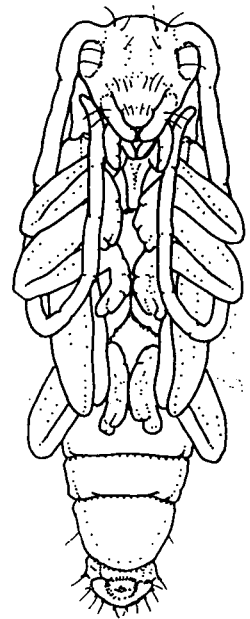
40A



40B



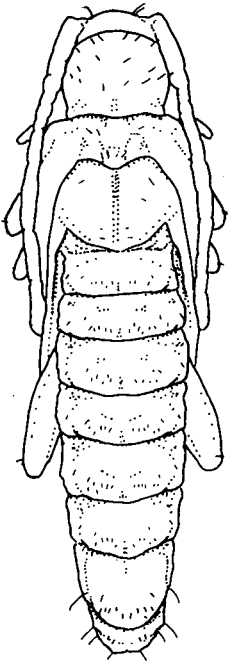
41A



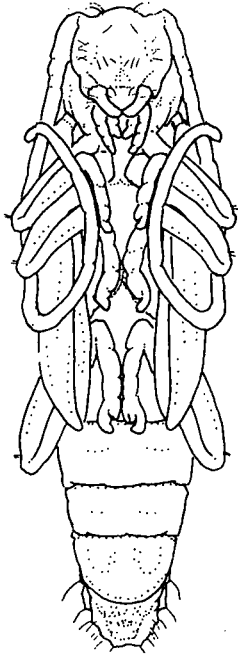
41B

第 14 図 版

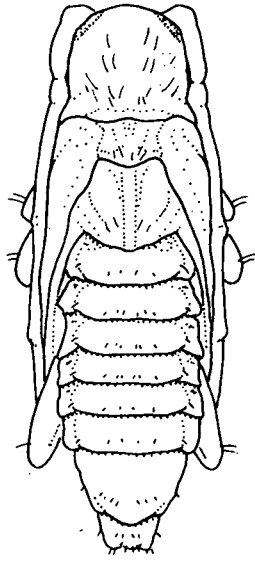
- 42A ハンノアオカミキリ, 背面 *Eutetrappa chrysochioris* Bates, dorsal view  
42B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 43A ヒゲナガヒメルリカミキリ, 背面 *Praolia citrinipes* Bates, dorsal view  
43B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 44A シラホシカミキリ, 背面 *Glenea relictta* Pascoe, dorsal view  
44B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 45A リュウキュウルリボシカミキリ, 背面 *Glenea chlorospila* Gahan, dorsal view  
45B 同, 腹面 ditto, ventral view (梅谷献二・藤村俊彦, 1954より転写)



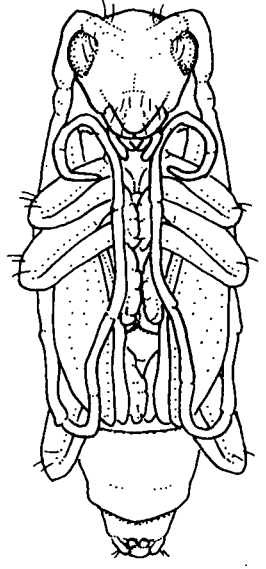
42A



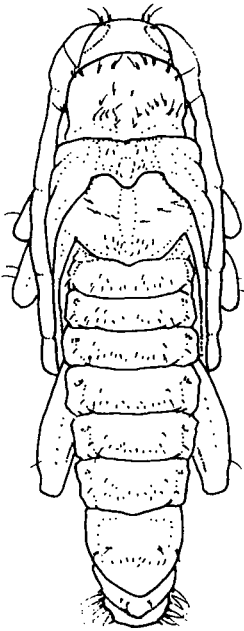
42B



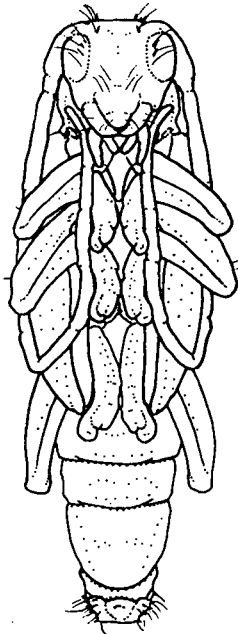
43A



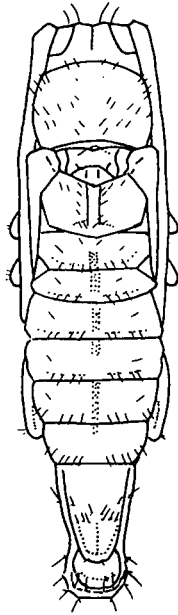
43B



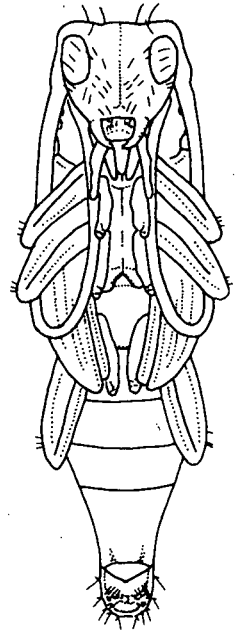
44A



44B



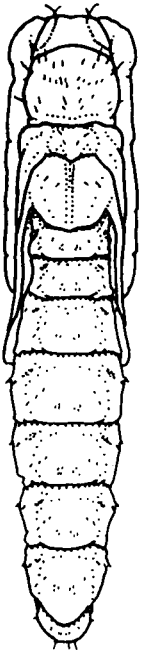
45A



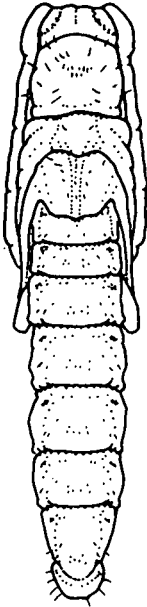
45B

第 15 図 版

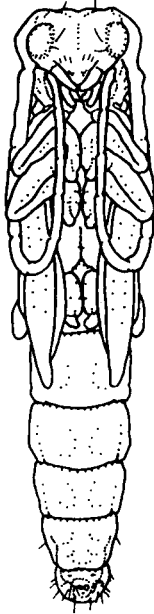
- 46A リンゴカミキリ, 背面 *Oberea japonica* (Thunberg), dorsal view  
46B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 47A クスノハイイロリンゴカミキリ, 背面 *Oberea griseopennis* Schwarzer, dorsal view  
47B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 48A コジマベニスジカミキリ, 背面 *Nipponostenostola pterocaryai* (Hayashi), dorsal view  
48B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 49A ヨツキボシカミキリ, 背面 *Epiglenea comes* Bates, dorsal view  
49B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 50A キクスイカミキリ, 背面 *Phytoecia rufiventris* Gautier et Cottes, dorsal view  
50B 同, 腹面 ditto, ventral view



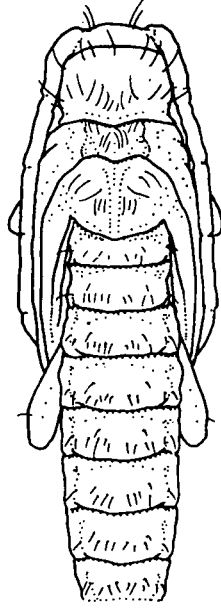
46A



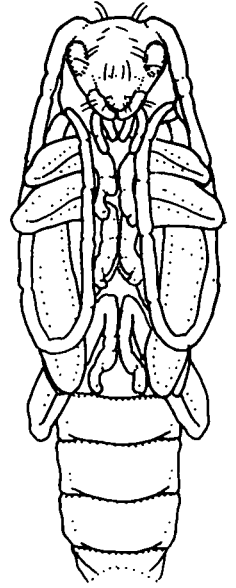
47A



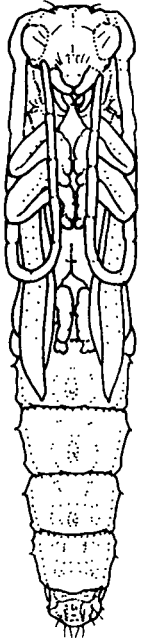
47B



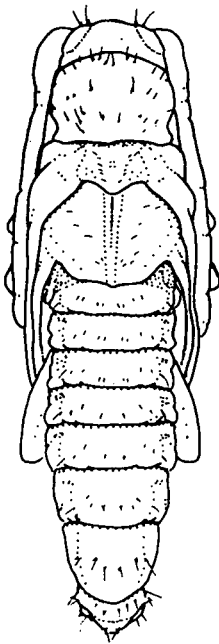
48A



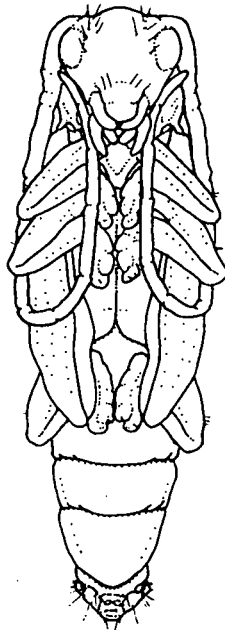
48B



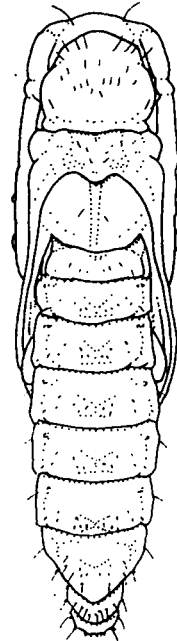
46B



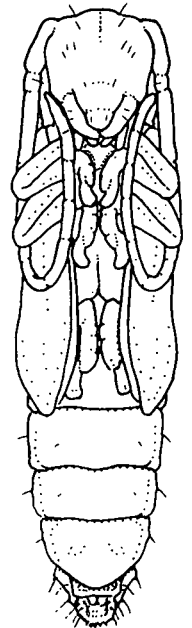
49A



49B



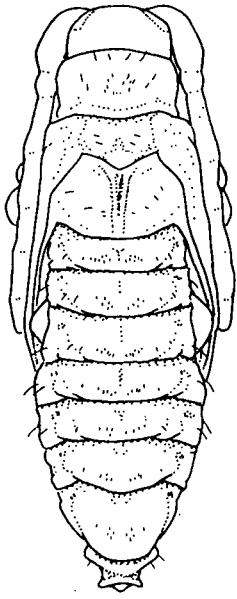
50A



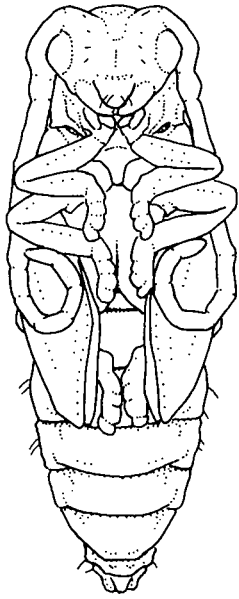
50B

第 16 図 版

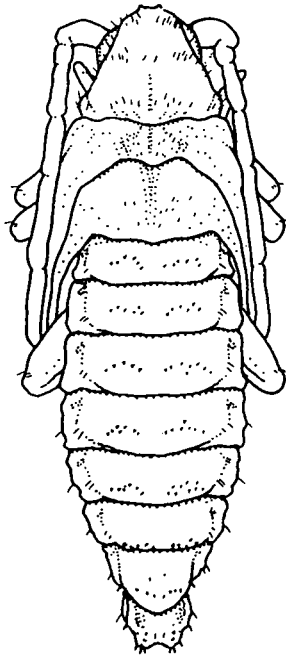
- 51A ルリカミキリ, 背面 *Bacchisa fortunei* (Thomson), dorsal view  
51B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 52A ケブトハナカミキリ, 背面 *Caraphia lepturoides* (Matsushita), dorsal view  
52B 同, 腹面 ditto, ventral view
- 53A オガサワライカリモントラカミキリ, 背面 *Xylotrechus ogasawarensis* Matsushita,  
dorsal view  
53B 同, 腹面 ditto, ventral view  
53C 同, 第7・8腹節, 背面 ditto, 7th and 8th abdominal segments, dorsal view
- 54A テツイロヒメカミキリ, 背面 *Ceresium sinicum* White, dorsal view  
54B 同, 腹面 ditto, ventral view



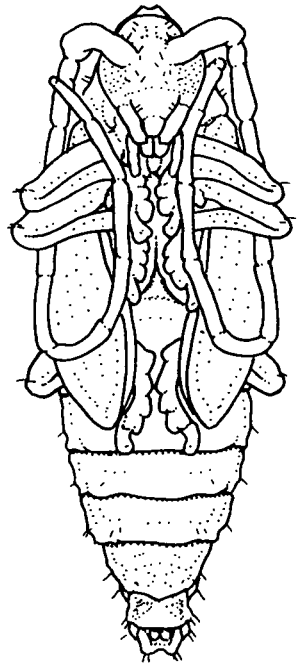
51A



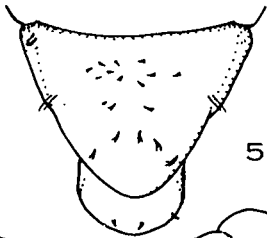
51B



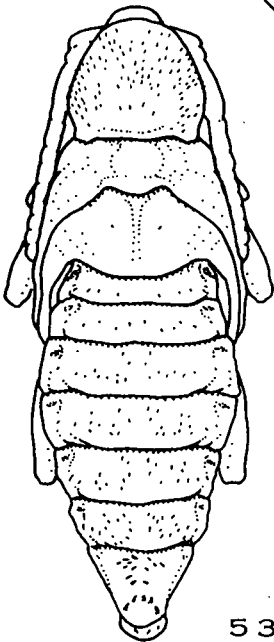
52A



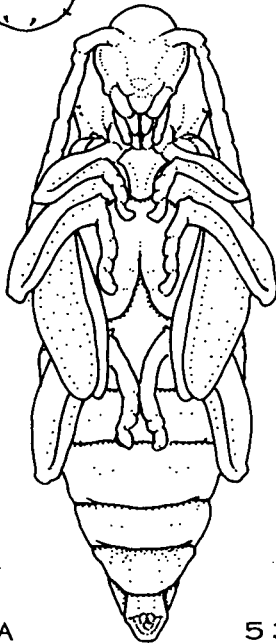
52B



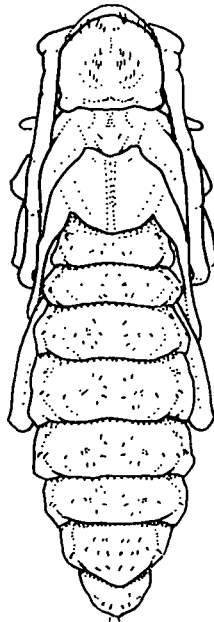
53C



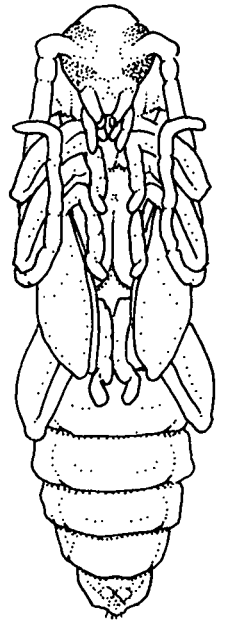
53A



53B



54A



54B

